

(様式1)

# 令和3年度 業務実績等報告書

(第3期中期計画・第2事業年度)

令和4年6月



地域の明日を医療で支える

地方独立行政法人 **長野県立病院機構**

## 目 次

### I 法人の概要

1 目 的	1
2 業務内容	1
3 沿 革	1
4 設立にかかる根拠法	1
5 組織図その他法人の概要	2
6 事業所の所在地	5
7 資本金の額（長野県からの出資額）	5
8 役員の氏名、役職及び任期	6
9 常勤職員の数及び県からの派遣職員等の数	7

### II 業務実績及び業務実績に係る自己評価

1 法人全体	
1-1 評定一覧	8
1-2 総合評価	9
1-3 項目別評価	10
2 病院等別	
2-1 信州医療センター	27
2-2 こころの医療センター駒ヶ根	32
2-3 阿南病院・阿南病院訪問看護ステーションさくら・阿南介護老人保健施設	38
2-4 木曾病院・木曾病院介護医療院・木曾介護老人保健施設	46
2-5 こども病院	53
2-6 信州木曾看護専門学校	61
2-7 本部事務局・本部研修センター	65
<参考> 数値目標に対する達成状況及び主な経営指標	71

## I 法人の概要（令和4年3月31日現在）

### 1 目的

長野県の医療政策として必要な地域医療、高度医療及び専門医療を提供すること等により、県民の健康の維持及び増進並びに県内医療水準の向上に寄与する。（定款第1条）

### 2 業務内容

当法人は、定款第1条の目的を達成するため、次に掲げる業務を行う。

- (1) 医療を提供すること。
- (2) 医療に関する調査及び研究を行うこと。
- (3) 医療に関する研修を行うこと。
- (4) 医療に関する地域への支援を行うこと。
- (5) 災害等における医療救護を行うこと。
- (6) 地域医療を補完する介護老人保健施設の運営を行うこと。
- (7) 看護師養成所の運営を行うこと。
- (8) 上記の業務に附帯する業務を行うこと。

### 3 沿革

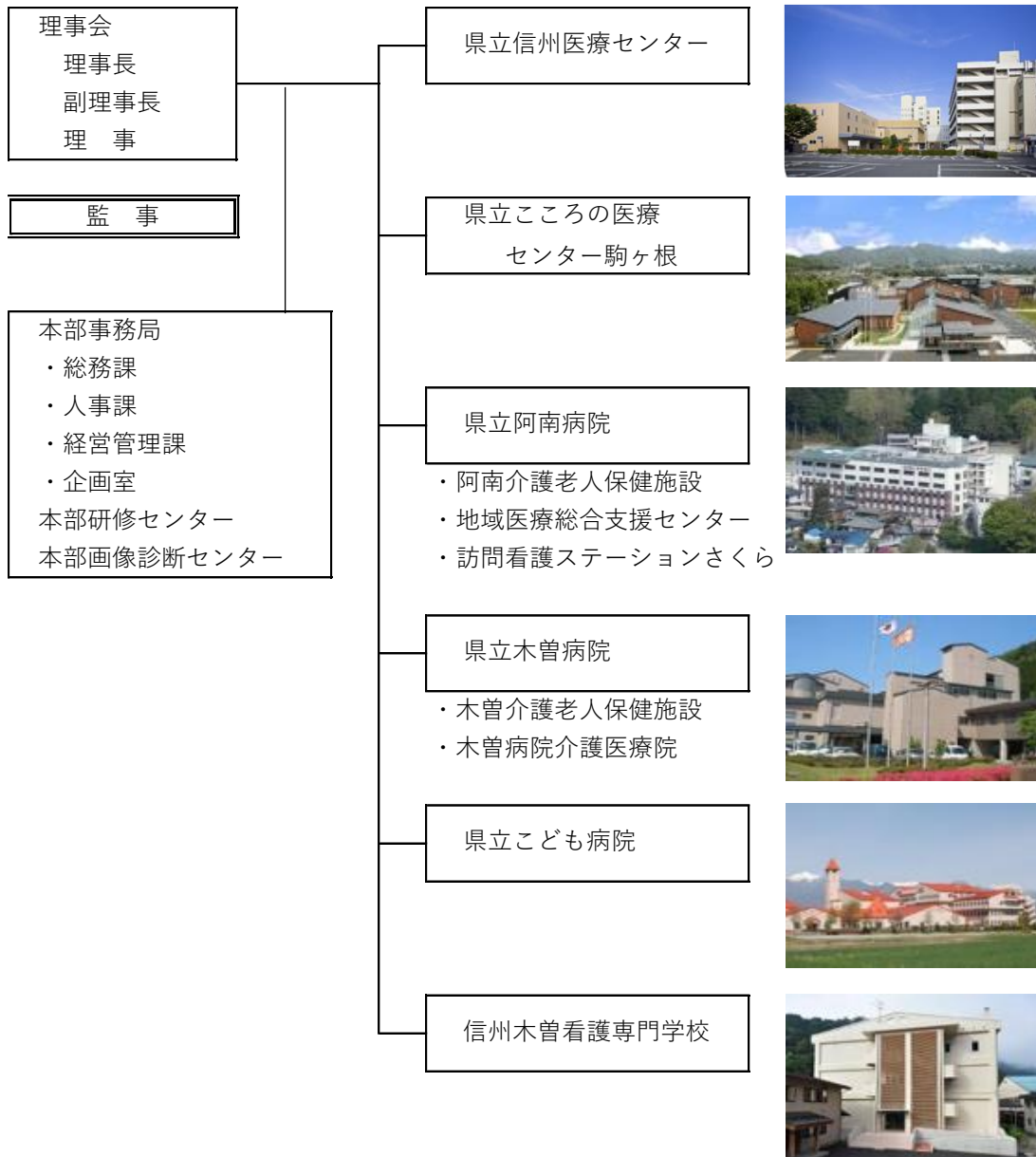
平成22年4月 地方独立行政法人長野県立病院機構発足  
第一期中期計画開始  
初代理事長 勝山 努 就任  
平成25年4月 2代理事長 久保 恵嗣 就任  
平成27年4月 第二期中期計画開始  
令和2年4月 第三期中期計画開始

### 4 設立にかかる根拠法

地方独立行政法人法（平成15年法律第118号）

5 組織図その他法人の概要

〈地方独立行政法人長野県立病院機構組織図〉



県立病院の概況

区分	信州医療センター (一般)	こころの医療センター 駒ヶ根 (精神)	阿南病院 (一般)	訪問看護ステーション さくら	阿南 介護老人 保健施設	木曽病院 (一般)	木曽病院 介護医療院	木曽 介護老人 保健施設	こども病院 (小児専門)
	所在地	須坂市	駒ヶ根市	阿南町	同左	同左	木曽町	同左	
開設許可	S23.6.1	S31.7.16	S23.6.1			S38.9.12			H4.3.31
診療開始年月日	同上	S31.9.15	同上	R2.4.1	H6.5.30	S39.4.20	R2.3.1	H7.5.15	H5.5.28
診療科目等	内科	精神科	内科		施設	内科	施設	施設	小児科
	脳神経内科		精神科		サービス	精神科	サービス	サービス	麻酔科
	呼吸器内科		小児科		(入所)	神経内科	(入所)	(入所)	産科
	消化器内科		外科		居宅	消化器内科	居宅	居宅	循環器小児科
	循環器内科		整形外科		サービス	循環器内科	サービス	サービス	心臓血管外科
	感染症内科		皮膚科		(短期入	小児科	(短期入	(短期入	神経小児科
	血液内科		泌尿器科		所療養介	外科	所療養介	所療養介	小児外科
	小児科		婦人科		護・通所リ	整形外科	護・通所リ	護・通所リ	整形外科
	外科		眼科		ハビリテーショ	形成外科	ハビリテーショ	ハビリテーショ	形成外科
	整形外科		リハビリテーショ		ン・介護予	脳神経外科	ン・介護予	ン・介護予	脳神経外科
	形成外科		科		防短期入	皮膚科	防短期入	防短期入	放射線科
	脳神経外科		放射線科		所療養介	泌尿器科	所療養介	所療養介	リハビリテーショ
	呼吸器外科		麻酔科		護・介護	産婦人科	護・介護	護・介護	精神科
	血管外科				予防通所リ	眼科	予防通所リ	予防通所リ	眼科
	皮膚科				ハビリテーショ	耳鼻咽喉科	ハビリテーショ	ハビリテーショ	泌尿器科
	泌尿器科				ン)	リハビリテーショ	ン)	ン)	耳鼻咽喉科
	産婦人科					科			皮膚科
	眼科					放射線科			アレルギー科
	耳鼻咽喉科					麻酔科			
放射線科									
麻酔科									
リハビリテーショ									
科									
精神科									
病理診断科									
救急科									
棟別許可病床数	一般	292床		85床	(定員)	176床	(定員)	(定員)	200床
	結核	24床			入所50人		入所20人	入所50人	
	感染症	4床			通所10人	4床		通所10人	
	精神		129床						
	療養					19床			
計	320床	129床	85床		199床			200床	
運用病床数	292床	129床	70床			151床			180床
職員数	医師	40人	12人	9人		25人			64人
	研修医	9人							34人
	看護師	249人	95人	51人	3人	134人	5人		297人
	その他	105人	46人	36人	13人	89人	16人		96人
	計	403人	153人	96人	16人	248人	21人		491人

#### 〈県立病院の概要〉

- ・信州医療センター：須高地域の中核病院、県内感染症対策の専門病院、医師の養成機関
- ・こころの医療センター駒ヶ根：本県における精神科の中核病院
- ・阿南病院：下伊那南部の医療を担う、へき地医療拠点病院
- ・木曽病院：地域完結型のセンター的役割を担う木曽地域唯一の病院
- ・こども病院：一般の医療機関では対応困難な高度小児医療等を行う紹介型病院、県の総合周産期母子医療センター

#### 〈訪問看護事業所の概要〉

利用者が可能な限り、その居宅において、その有する能力に応じて自立した日常生活を営むことができるよう、その療養生活を支援し、心身の機能の維持回復及び生活機能の維持または向上を図ることを目的に運営を行っている。

- ・名称：長野県立阿南病院訪問看護ステーションさくら

#### 〈介護医療院の概要〉

「医療を必要とする要介護者の長期療養・生活施設」として、看護師や介護福祉士が常駐し、医学的管理下で看護、介護、機能訓練や日常生活の世話等を行い、能力に応じた自立した日常生活を営むことを目的に運営を行っている。

- ・名称：長野県立木曽病院介護医療院

#### 〈介護老人保健施設の概要〉

平成12年度から介護保険法による介護老人保健施設となり、要介護者に対し施設サービス計画に基づく、ア 医学的管理下での看護・介護、イ 機能訓練等の必要な医療、ウ 栄養管理、食事・入浴などの日常生活のサービスを行うことを目的に運営を行っている。

入所対象者は、病状が安定期にあって、ア～ウのサービスを必要とする要介護者であり、施設では、在宅の生活への復帰を目指したサービスを提供している。

- ・名称：長野県阿南介護老人保健施設、長野県木曽介護老人保健施設

#### 〈看護師養成所の概要〉

人々の生命と暮らしのありのままを理解することのできる幅広い視野を育み、看護に必要な知識・技術・態度を身に付け、保健・医療・福祉の領域において貢献し得る看護実践者の育成を目的に運営を行っている。

- ・名称：信州木曽看護専門学校
- ・課程：医療専門課程 看護学科3年課程
- ・修業年限：3年
- ・入学定員：1学年30人（総定員90人）
- ・設置年月日：平成26年4月1日

## 6 事業所の所在地

### 【本部】

本部事務局 : 長野市大字南長野字幅下692- 2  
本部研修センター : 須坂市大字須坂1332 信州医療センター内

### 【病院】

長野県立信州医療センター : 須坂市大字須坂1332  
長野県立こころの医療センター駒ヶ根 : 駒ヶ根市下平2901  
長野県立阿南病院 : 下伊那郡阿南町北條2009- 1  
長野県立木曽病院 : 木曽郡木曽町福島6613- 4  
長野県立こども病院 : 安曇野市豊科3100

### 【訪問看護事業所】

長野県立阿南病院訪問看護ステーションさくら : 下伊那郡阿南町北條2009-1

### 【介護医療院】

長野県立木曽病院介護医療院 : 木曽郡木曽町福島6613- 4

### 【介護老人保健施設】

長野県阿南介護老人保健施設 : 下伊那郡阿南町北條2009- 1  
長野県木曽介護老人保健施設 : 木曽郡木曽町福島6613- 4

### 【看護師養成所】

信州木曽看護専門学校 : 木曽郡木曽町新開4236

## 7 資本金の額（長野県からの出資額）

305,621,763円（令和4年3月31日現在）※前事業年度末からの増減なし

## 8 役員の氏名、役職及び任期

職名	氏名	任期	備考
理事長	クボケイシ 久保恵嗣	平成30年4月1日 ～令和4年3月31日	
副理事長	シマダノブユキ 島田伸之	令和2年9月1日 ～令和4年3月31日	
理事	テラダマサル 寺田克	令和2年4月1日 ～令和4年3月31日	信州医療センター院長
	ハニハラトキジ 埴原秋児	令和2年4月1日 ～令和4年3月31日	こころの医療センター駒ヶ根院長
	タナカマサト 田中雅人	令和2年4月1日 ～令和4年3月31日	阿南病院長
	ハマノヒデアキ 濱野英明	令和2年4月1日 ～令和4年3月31日	木曽病院長
	ナカムラトモヒコ 中村友彦	令和2年4月1日 ～令和4年3月31日	こども病院長
	ハラダヨリカズ 原田順和	令和3年4月1日 ～令和5年3月31日	改革統括医療監
	シマザキケンジ 島崎謙治	令和2年6月1日 ～令和4年5月31日	国際医療福祉大学大学院教授
	ワタナベヨウコ 渡辺庸子	令和2年4月1日 ～令和4年3月31日	医師
監事	ヤナギサワイサム 柳沢勇	平成30年4月1日 ～令和3年度の財務諸表の 承認の日	元 株式会社八十二銀行大阪支店長
	ヤマナカタクシ 山中崇	平成30年4月1日 ～令和3年度の財務諸表の 承認の日	公認会計士、新日本有限責任監査法人 松本事務所 所長



9 常勤職員の数及び県からの派遣職員等の数

常勤職員の数及び県からの派遣職員等の数

(人)

区 分	R 4 年3月31日		R 3 年 3 月31日		対前年度 増減(a-b)	
	職員数 a		職員数 b		職員数	うち県派遣
		うち県派遣		うち県派遣		
医 師	196	15	188	12	8	3
看 護 師	850		837		13	0
薬 剤 師	44	2	44	2	0	0
診 療 放 射 線 技 師	29		29		0	0
臨 床 検 査 技 師	42		42		0	0
管 理 栄 養 士	16		16		0	0
作 業 療 法 士	22		21		1	0
理 学 療 法 士	46		47		△ 1	0
臨 床 工 学 技 士	18		18		0	0
言 語 聴 覚 士	8		8		0	0
視 能 訓 練 士	4		5		△ 1	0
保 健 師	1		1		0	0
臨 床 心 理 技 師	9		10		△ 1	0
歯 科 衛 生 士	1		1		0	0
介 護 支 援 専 門 員					0	0
介 護 福 祉 員	30		30		0	0
精 神 保 健 福 祉 士	10		10		0	0
福 祉 相 談 員	12	1	12	1	0	0
事 務 ( 技 術 ) 職 員	134	17	136	19	△ 2	△ 2
診 療 情 報 管 理 士					0	0
計	1,472	35	1,455	34	17	1

※ 有期雇用職員（再雇用職員、特定期限付職員、期間限定雇用職員（産育休職員の代替として雇用されている職員は除く）、有期常勤職員（研修医のみ））を含む。

## II 業務実績及び業務実績に係る自己評価

### 1 法人全体

#### 1-1 総合評価

#### ○総合評価

自己評価
A

	自己評価
<b>大項目1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置</b>	A
小項目1-1 県立病院が担うべき医療等の提供	B
細項目1-1-1 地域医療の提供	B
細項目1-1-2 高度・専門医療の提供	A
細項目1-1-3 災害医療等の提供	A
細項目1-1-4 認知症の専門医療の提供	B
細項目1-1-5 介護サービスの提供	B
小項目1-2 地域連携の推進	A
細項目1-2-1 地域医療構想への対応	A
細項目1-2-2 地域包括ケアシステムの推進	A
細項目1-2-3 地域の保健・福祉関係機関等との連携の推進	A
小項目1-3 医療従事者の養成と専門性の向上	A
細項目1-3-1 県内医療に貢献する医師の確保・養成	A
細項目1-3-2 機構職員の養成	A
細項目1-3-3 県内医療技術者の技術水準の向上への貢献	A
細項目1-3-4 信州木曾看護専門学校の運営	A
小項目1-4 医療の質の向上に関すること	A
細項目1-4-1 より安全で信頼できる医療の提供	A
細項目1-4-2 医療等サービスの一層の向上	A
細項目1-4-3 先端技術の活用	A
細項目1-4-4 信州大学等との連携	B
細項目1-4-5 医療に関する研究及び調査の推進	A
<b>大項目2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置</b>	A
小項目2-1 業務運営体制の強化	A
小項目2-2 働き方改革への対応	A
小項目2-3 職員の勤務環境の向上	A
<b>大項目3 予算（人件費の見積りを含む。）、収支計画及び資金計画</b>	A
小項目3-1 経常黒字の維持	A
小項目3-2 経営基盤の強化	A
細項目3-2-1 収益の確保	A
細項目3-2-2 費用の抑制	A
<b>大項目4 その他の業務運営に関する事項</b>	A
小項目4-1 コンプライアンスの推進と適切な情報管理	A
小項目4-2 施設整備及び医療機器に関する事項	A
小項目4-3 コロナ禍で取り組む事項	A

1 - 2 総合評価

総合評価 自己評定	A
<b>【総評】</b>  大項目の自己評定ですべてA評定としたことから、総合評価の自己評定について、A評定とした。	
<b>【今後の課題と方針】</b> 令和3年度は、新型コロナウイルス感染症への積極的な対応を行った結果、病床確保料等の補助金もあったことから経常黒字を達成した。今後は、コロナ禍の収束を見据えて、少子高齢化や受診行動の変化など急速な外部環境の変化に対応しながら、県立病院の医療資源を最大限に活用し、県等関係機関と連携して、県民の求める医療ニーズに応えるとともに、引き続き経営の安定化に努める。	

1 - 3 項目別評価

実績及び自己評価 (S A B C D)

<b>大項目 1</b>	
県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置	
<b>自己評価</b>	<b>A</b>
<p>(中期計画)</p> <p>病院機構は、患者中心の安全で安心な医療を提供するため、常に医療機関としての機能向上に努め、県民の健康の維持及び増進に寄与する。</p> <p>また、医療機関を含め地域との連携を図るとともに、医療人材の養成を通して県内の医療水準の向上を図る。</p>	
<p><b>【総評】</b></p> <p>大項目の自己評価は、小項目においてA評価が3項目、B評価が1項目であったことから、A評価とした。</p>	
<p><b>【今後の課題と方針】</b></p> <p>少子高齢化や受診行動の変化など急速な外部環境の変化に的確に対応しながら、人材育成と外部との連携を強化して、引き続き質の高い医療を効率的に提供する。</p>	

小項目 1 - 1 県立病院が担うべき医療等の提供	<b>B</b>																								
<p>&lt;細項目 1 - 1 - 1&gt;地域医療の提供</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>個別評価においてA評価が15項目、B評価が6項目、C評価が2項目、D評価が1項目であったことから、B評価とした。</li> </ul> <p>ア 地域医療</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>信州医療センターは、産後の母親のメンタルヘルスを向上させる「須坂モデル」を継続して実施した。</li> <li>阿南病院は、内科医を1人増やし常勤医師の確保等による診療体制の充実を行った。</li> <li>木曽病院は、産科病棟の改修工事を実施し、療養環境の改善を行った。</li> <li>こども病院は、高度医療機器の共同利用等を通じて、地域の医療機関との連携を推進した。</li> </ul> <p><b>【在宅医療件数（訪問診療・訪問看護・訪問リハ）】</b></p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 30%;">病院名</th> <th style="width: 15%;">実績</th> <th style="width: 15%;">年度計画</th> <th style="width: 15%;">対年度計画</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>信州医療センター</td> <td style="text-align: center;">8,276</td> <td style="text-align: center;">8,760</td> <td style="text-align: center;">△484</td> </tr> <tr> <td>こころの医療センター駒ヶ根</td> <td style="text-align: center;">1,794</td> <td style="text-align: center;">1,936</td> <td style="text-align: center;">△142</td> </tr> <tr> <td>阿南病院</td> <td style="text-align: center;">4,100</td> <td style="text-align: center;">4,010</td> <td style="text-align: center;">90</td> </tr> <tr> <td>木曽病院</td> <td style="text-align: center;">5,840</td> <td style="text-align: center;">5,500</td> <td style="text-align: center;">340</td> </tr> <tr> <td>こども病院</td> <td style="text-align: center;">44</td> <td style="text-align: center;">100</td> <td style="text-align: center;">△56</td> </tr> </tbody> </table>	病院名	実績	年度計画	対年度計画	信州医療センター	8,276	8,760	△484	こころの医療センター駒ヶ根	1,794	1,936	△142	阿南病院	4,100	4,010	90	木曽病院	5,840	5,500	340	こども病院	44	100	△56	<b>B</b>
病院名	実績	年度計画	対年度計画																						
信州医療センター	8,276	8,760	△484																						
こころの医療センター駒ヶ根	1,794	1,936	△142																						
阿南病院	4,100	4,010	90																						
木曽病院	5,840	5,500	340																						
こども病院	44	100	△56																						

・在宅医療においては、概ね年度計画を達成した。

**【分娩件数】**

病院名	実績	年度計画	対年度計画
信州医療センター	256	250	6
木曽病院	75	100	△25
こども病院	293	300	△7

- ・各病院で、新型コロナウイルス感染拡大による影響から回復傾向となり、年度計画を概ね達成した。
- ・信州医療センターは、個室・2人部屋での入院環境の確保とお祝い膳のメニューの見直しや食器の更新を行った結果、患者の満足度が向上し、年度計画を上回った。

**イ へき地医療**

- ・阿南病院は、売木村診療所への代診医師の派遣、医師・医療技術者の福祉施設への派遣、放射線機器の共同利用等を実施した。
- ・木曽病院は、CT・MRIの共同利用、木曽町への医師派遣等を実施した。

**【巡回診療実施体制】**

病院名	実績	年度計画	対年度計画
阿南病院	26回 (74人)	26回 (70人)	±0回 (4人)
木曽病院	19回 (32人)	24回 (48人)	△5回 (△12人)

- ・巡回診療について、概ね年度計画を達成した。

**<細項目1-1-2>高度・専門医療の提供**

- ・個別評価においてS評定が4項目、A評定が15項目、B評定が3項目であったことから、A評定とした。

**ア 感染症医療（新型コロナウイルス感染症対応を含む）**

- ・各病院は、新型コロナウイルス感染者等を積極的に受け入れ、感染拡大に対応した適切な医療の提供を行った。また、市町村等と協力し、住民等へのワクチン接種を実施した。
- ・信州医療センターは、高齢者等の中等症患者の受入体制整備、海外渡航者に対するワクチン接種、渡航前PCR検査と結果証明書の発行等を実施した。また、感染症患者の受入訓練を実施し、集団発生等へ備えた。
- ・こころの医療センター駒ヶ根は、上伊那圏域の特別警報発出に伴いデイケアを一時中止したが、感染状況に応じてショートケア（昼食なし）を実施した。
- ・阿南病院は、検査体制を充実させ、飯伊地区外の患者も積極的に受入れた。
- ・木曽病院は、発熱外来・自費検査を継続して実施した。
- ・こども病院は、外来診察室（感染隔離室含む）を増設した。

A

**【感染者等受入数】**

病院名	実績	前年度実績	対前年度実績
信州医療センター	208人 延べ2,314日	195人 延べ2,181日	13人 133日
こころの医療センター駒ヶ根	13人 延べ81日	15人 延べ71日	△2人 10日
阿南病院	49人	56人	△7人

	延べ 364 日	延べ 368 日	△4 日
木曽病院	34 人 延べ 259 日	38 人 延べ 345 日	△4 人 △86 日
こども病院	3 人 延べ 11 日	0 人 延べ 0 日	3 人 11 日

【検査件数】

病院名	実績	前年度実績	対前年度実績
信州医療センター	13,691 件	1,621 件	12,070 件
こころの医療センター駒ヶ根	224 件	17 件	207 件
阿南病院	1,582 件	248 件	1,334 件
木曽病院	5,331 件	2,513 件	2,818 件
こども病院	1,082 件	52 件	1,030 件

【発熱外来受入件数】

病院名	実績	前年度実績	対前年度実績
信州医療センター	8,396 人	1,568 人	6,828 人
木曽病院	2,298 人	1,262 人	1,036 人

【ワクチン接種件数】

病院名	実績	前年度実績	対前年度実績
信州医療センター	5,072 件	450 件	4,662 件
こころの医療センター駒ヶ根	1,523 件	0 件	1,523 件
阿南病院	8,661 件	0 件	8,661 件
木曽病院	2,646 件	0 件	2,646 件
こども病院	1,864 件	347 件	1,517 件

イ 精神医療

こころの医療センター駒ヶ根は、以下のとおり、県の精神科医療の中核病院として、専門医療を提供し、概ね年度計画を達成した。

- ・ m-ECT（修正型電気痙攣療法）センターを開設し令和4年1月から運営を開始した。
- ・ 子どものこころ総合医療センターの開設に向け、「児童・思春期、青年期精神科医療懇談会」を開催し、学識者・児童支援者・相談機関関係者等から広く意見や要望を集め、子どものこころ総合医療センターのあり方、開設の意義や目指すべき姿など基本計画の骨格となる「基本構想」を策定した。
- ・ 県から指定された「依存症専門機関」及び「依存症治療拠点機関」の役割、各種依存症プログラムの提供を内外に示し、関係機関との連携を強化するため、令和4年3月に「依存症医療センター」を開設した。
- ・ 依存症で悩む家族のためのプログラム（CRAFT）を本格稼働した。
- ・ ゲーム・ネット依存症チーム会で、治療体制、家族支援、情報発信について検討し、先進病院の治療プログラムを参考に、病院独自の治療プログラムを確立し、令和4年3月より外来受入れを開始した。

ウ 高度小児医療、周産期医療

	<p>こども病院は、以下のとおり、県における高度小児医療・総合周産期医療を担う病院として、専門医療を提供し、概ね年度計画を達成した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・外来診察室を増設に着工し、3月末までに一部完成した。(令和4年5月から運用開始予定)</li> <li>・小児アレルギーセンターを令和3年4月に設置し、アレルギーに関する正しい情報に関する研修や小児アレルギー相談用メールアドレスの開設による相談受付、長野県小児アレルギー診療の実態調査(アンケート調査)の実施等を行った。</li> <li>・成人先天性心疾患センターを令和3年4月に設置し、信州大学医学部付属病院と連携して成人先天性心疾患の診断・治療を行うとともに、人材の育成と臨床研究を支援した。</li> <li>・移行期医療支援センターとして、5月から16歳以上を対象に移行医療支援外来を毎月3枠開設し、25件の利用があった。</li> <li>・小児がん経験者の晩期合併症早期発見のための長期フォローアップ外来を推進するとともに、移行期医療支援センターと協力し他医療機関との連携を強化した。</li> <li>・最近の小児患者のニーズに対応した診療体制の構築として、あたまの形外来、周期術前外来、薬剤師外来を設置している。また、成育女性外来を令和3年度から開設した。</li> </ul> <p>エ がん医療</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・信州医療センターは、ピロリ菌抗体測定検査についての積極的広報を実施し、抗体測定検査については前年度を超える検査件数があった。</li> </ul> <table border="1" data-bbox="264 952 1369 1155"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>実績</th> <th>前年度実績</th> <th>対前年度比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>健康管理センターにおける抗体測定検査件数</td> <td>80件</td> <td>68件</td> <td>117.6%</td> </tr> <tr> <td>ピロリ菌専門外来への紹介件数</td> <td>39件</td> <td>45件</td> <td>86.7%</td> </tr> <tr> <td>うちピロリ菌専門外来での受診件数</td> <td>24件</td> <td>31件</td> <td>77.4%</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> <li>・木曾病院は、歯科口腔外科を令和3年4月に開設した。</li> <li>・こども病院は、緩和ケア医療、妊孕性温存や就労支援の実施体制を推進した。</li> </ul>	項目	実績	前年度実績	対前年度比	健康管理センターにおける抗体測定検査件数	80件	68件	117.6%	ピロリ菌専門外来への紹介件数	39件	45件	86.7%	うちピロリ菌専門外来での受診件数	24件	31件	77.4%	
項目	実績	前年度実績	対前年度比															
健康管理センターにおける抗体測定検査件数	80件	68件	117.6%															
ピロリ菌専門外来への紹介件数	39件	45件	86.7%															
うちピロリ菌専門外来での受診件数	24件	31件	77.4%															
	<p>&lt;細項目1-1-3&gt;災害医療の提供</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・個別評価においてA評価が6項目であったことから、A評価とした。</li> <li>・阿南病院は、災害時の電子カルテデータのバックアップを遠隔地のクラウドシステムを利用し行えるようシステム追加を実施した。</li> <li>・木曾病院は、県DMA T緊急自動車運転研修に2人、県DMA T養成研修に3人が参加した。また、井戸水の浄化設備の整備を行った。</li> </ul>	A																
	<p>&lt;細項目1-1-4&gt;認知症の専門医療の提供</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・個別評価においてA評価が6項目、B評価が2項目、D評価が1項目であったことから、B評価とした。</li> <li>・こころの医療センター駒ヶ根は、令和2年4月に開設した「認知症疾患医療センター」において、専門相談や鑑別診断、日常生活支援を開始し、関係機関等と連携して認知症の専門医療・専門相談を提供した。</li> <li>・阿南病院は、9月から「せん妄ハイリスク患者ケア加算」の算定を開始した。</li> <li>・木曾病院は、認知症患者のアセスメントや看護方法等に係る院内研修の実施等により認知症ケア加算2を取得するなど認知症ケアを充実させた。</li> </ul>	B																

	<p>&lt;細項目1-1-5&gt;介護サービスの提供</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・個別評価においてA評価が3項目、B評価が2項目、D評価が1項目であったことから、B評価とした。</li> </ul> <p>【訪問看護ステーション利用者数】</p> <table border="1" data-bbox="264 315 1369 414"> <thead> <tr> <th>病院名</th> <th>実績</th> <th>年度目標</th> <th>対目標比</th> <th>前年度実績</th> <th>対前年度比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>阿南病院</td> <td>2,767人</td> <td>2,900人</td> <td>95.4%</td> <td>2,963人</td> <td>93.3%</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染症拡大に伴う利用控えなどにより、利用者数は対前年度比93.3%に留まった。</li> </ul> <p>【木曾病院介護医療院利用実績】</p> <table border="1" data-bbox="264 571 1002 669"> <thead> <tr> <th>施設名</th> <th>実績</th> <th>前年度実績</th> <th>対前年度比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>木曾病院</td> <td>6,449人</td> <td>5,834人</td> <td>110.5%</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> <li>・木曾病院介護医療院は、ベッドコントロール会議等で部署ごとの本来の機能を確認しながら情報を共有し、入所者の状態及びニーズに合ったサービスの提供を図った。</li> </ul>	病院名	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比	阿南病院	2,767人	2,900人	95.4%	2,963人	93.3%	施設名	実績	前年度実績	対前年度比	木曾病院	6,449人	5,834人	110.5%	B
病院名	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比																	
阿南病院	2,767人	2,900人	95.4%	2,963人	93.3%																	
施設名	実績	前年度実績	対前年度比																			
木曾病院	6,449人	5,834人	110.5%																			
今後の課題と方針																						
引き続き、県立病院に求められるかつ、担うべき医療の提供に努める。																						
小項目1-2 地域連携の推進	<p>&lt;細項目1-2-1&gt;地域医療構想への対応</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・個別評価においてA評価が5項目であったことから、A評価とした。</li> </ul> <p>【地域包括ケア病床利用実績】(退院患者を含む)</p> <table border="1" data-bbox="264 1270 1195 1375"> <thead> <tr> <th>病院名</th> <th>実績</th> <th>前年度実績</th> <th>対前年度実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>阿南病院</td> <td>3,657人</td> <td>230人</td> <td>3,427人</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> <li>・阿南病院は、地域包括ケア病床の適切な運用方法を検討するための多職種による拡大ベッドコントロール会議を月1回実施するなどして、利用率の向上を図った。</li> </ul> <p>&lt;細項目1-2-2&gt;地域包括ケアシステムの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・個別評価においてS評価が1項目、A評価が5項目、B評価が5項目であったことから、A評価とした。</li> <li>・信州医療センターは、逆紹介率の向上が課題であることについて院内広報を行うとともに、医師が診療情報提供書などの作成の際に戸惑わないよう電子カルテ上の文書種別を分かり易い表示に変更することにより、逆紹介率の大幅アップを達成した。</li> <li>・こころの医療センター駒ヶ根は、訪問看護ステーション開設に向けて、近隣クリニック等への訪問調査や情報収集を行い基本計画の策定を進めた。</li> <li>・阿南病院は、医師や認定看護師などの資格を有した看護師等を中心に「出前講座」を実施した。</li> <li>・木曾病院は、木曾広域連合から運営を委託された「在宅医療・介護連携支援センター」により、郡内各関係機関の情報共有や共通課題の解決を図り、地域包括ケアシステムの中核的役割を果たした。</li> </ul>	病院名	実績	前年度実績	対前年度実績	阿南病院	3,657人	230人	3,427人	A												
病院名	実績	前年度実績	対前年度実績																			
阿南病院	3,657人	230人	3,427人																			



・こども病院は、人工呼吸器を使用している医療ケア児を中心に訪問診療を行った。

【紹介率及び逆紹介率】

病院名	実績		年度計画	
	紹介率	逆紹介率	紹介率	逆紹介率
信州医療センター	28.4%	26.8%	34.0%	21.0%
こころの医療センター駒ヶ根	49.3%	44.6%	52.0%	40.0%
阿南病院	34.2%	22.4%	23.0%	16.0%
木曾病院	17.0%	31.0%	22.0%	26.0%
こども病院	69.0%	78.6%	77.0%	73.9%

・各病院は、紹介、逆紹介を通じて地域の医療機関等との連携を推進した。

<細項目1-2-3>地域の保健・福祉関係機関等との連携の推進

・個別評価においてA評価が5項目、B評価が4項目であったことから、A評価とした。

- ・信州医療センターは、心不全リハビリについてWEB研修（出前講座）開催に向けた資料作成を行った。また、広報誌や地域のフリーペーパー、ケーブルテレビなどを活用し、内視鏡検査の有効性等について継続した発信を行った。
- ・こころの医療センター駒ヶ根は、市町村、児童相談所等と連携した虐待や自殺企図、摂食障がいなどの緊急入院に対応した。児童病棟満床時には、緊急避難的に成人病棟で児童患者を受け入れた。

項目	実績	前年度実績	対前年度比
新規入院患者数	45件	53件	85.0%
（うち緊急・優先入院）	（6件）	（3件）	（200.0%）
（うち成人病棟への入院）	（4件）	（24件）	（16.7%）

・こども病院は、信州母子保健推進センターとの連携による保健師、助産師の研修を実施した。

【内視鏡検査件数】

病院名	実績	年度計画	対年度計画	前年度実績	対前年度実績
信州医療センター	6,657件	8,000件	△1,343件	6,316件	341件

・内視鏡検査件数は、年度当初、病院全体がコロナ患者受け入れと感染警戒レベルに対する対応をとっていたため、4月、5月の人間ドック受け入れ制限の実施により目標に達しなかった。

今後の課題と方針

内視鏡検査件数について、前年度に引き続き新型コロナウイルス感染症に係る受入制限等による件数の減少が課題であり、コンサルタントを活用したマーケティング等を検討し、検査件数の確保に努める。

A

<p>小項目 1 - 3 医療従事者の養成と専門性の向上</p>	<p>A</p>
<p>&lt;細項目 1 - 3 - 1&gt; 県内医療に貢献する医師の確保・養成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・個別評価においてA評価が5項目、B評価が2項目であったことから、A評価とした。</li> <li>・信州医療センターは、新専門医制度に対応したプログラムの作成及びスタッフの充実に図り、総合内科医の養成と定着を推進するため、4月から「総合内科医育成学講座(寄附講座)」を開講した。また、信州大学との寄附講座により担当教員(内科系)2人を配置し、プログラム作成と専門医確保の準備を進めた。</li> <li>・こころの医療センター駒ヶ根は、日本精神神経学会新専門医制度における信州大学の精神科研修プログラムの連携施設として引き続き専攻医1人を育成した。また、子どものこころ専門医機構に研修施設群(基幹病院)として、12月に承認された。</li> <li>・阿南病院は、老朽化した医師住宅について、阿南町の支援により2棟を新築した。</li> <li>・本部研修センターは、信州医療センターにおいて、医学生及び初期研修医に対し、シミュレーション教育を実施した。また、医学生対象長野県立5病院 Joint セミナーをweb開催した。</li> </ul>	<p>A</p>
<p>&lt;細項目 1 - 3 - 2&gt; 機構職員の養成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・個別評価においてA評価が9項目、B評価が1項目であったことから、A評価とした。</li> <li>・信州医療センターは、職員にeラーニングで、がん病態栄養専門管理栄養士資格更新及び食物アレルギー管理栄養士資格取得のための研修を受講させた。</li> <li>・信州医療センターは、指定研修機関として、令和3年10月に看護師特定行為研修を開講した。また、本部において看護部長打ち合わせ会で特定行為研修内容と修了後の活用について検討し、修了者の支援体制を構築した。</li> <li>・こころの医療センター駒ヶ根は、1人が精神科認定看護師資格を取得した。</li> <li>・本部研修センターは、シミュレーション教育指導者委員会を開催し、意見交換を実施した。また、新型コロナウイルス感染拡大に対応するため、各種職員研修をオンラインで実施し、延べ766人が受講した。</li> </ul>	<p>A</p>
<p>&lt;細項目 1 - 3 - 3&gt; 県内医療技術者の技術水準の向上への貢献</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・個別評価においてA評価が10項目であったことから、A評価とした。</li> <li>・信州医療センターは、感染症センターで、新型コロナウイルス感染症に関する講演会や抗菌薬適正使用に関する講演会、肺炎球菌ワクチンに関する講演会等を開催した。</li> <li>・こころの医療センター駒ヶ根は、精神科研修・研究センターで、県内の医療従事者、一般向けに出前講座を実施した。</li> <li>・こども病院は、小児周産期薬物療法研修コースに薬剤師を受け入れ、無菌調製研修及び新型コロナワクチン調製研修を行った。</li> <li>・本部研修センターは、シミュレーション研修や病院・学校・福祉施設等への講師派遣による研修を実施した。また、信州医療センターの院外広報誌にシミュレータ貸し出し手順など「研修センターの紹介」を掲載し、スキルスラボ及びシミュレータの利用促進を図った。</li> </ul>	<p>A</p>
<p>&lt;細項目 1 - 3 - 4&gt; 信州木曾看護専門学校の運営</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・個別評価においてA評価が3項目、B評価が1項目であったことから、A評価とした。</li> </ul>	<p>A</p>

<ul style="list-style-type: none"> <li>・改正カリキュラムの理解を深めるために、中心となる教員を研修に派遣し、その他の教員はWebによる学習会へ参加した。</li> <li>・令和3年7月にカリキュラム改正に係る届出を行った。</li> <li>・入学生確保のため、積極的に高校訪問を行った。</li> <li>・令和3年度の卒業生は、国家試験合格率は100%に達し、就職者のうち79%が県内病院に就職し、地域の医療人材の育成に貢献した。</li> </ul>	
<p>今後の課題と方針</p>	
<p>医療人材の育成について、引き続き積極的に取り組んでいく。また、信州木曾看護専門学校の出願者数は減少傾向であることから、オープンキャンパスの回数増、SNSによる情報発信、新聞広告及び出前講座の実施等による広報の充実により、入学生の確保に努める。</p>	
<p>小項目1－4医療の質の向上に関すること</p>	<p>A</p>
<p>&lt;細項目1－4－1&gt;より安全で信頼できる医療の提供</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・個別評価においてA評価が11項目、B評価が1項目であったことから、A評価とした。</li> <li>・医療安全相互点検は新型コロナウイルス感染対策のため、医療安全管理者による点検ではなく各病院の医療安全管理者等で点検を行い、医療安全管理者会議で結果について報告をし、評価を行う方法に変更して実施した。</li> <li>・新型コロナウイルス感染症に係る院内の感染対策については、各病院が徹底した対応を行い、院内感染の発生を防ぐことができた。</li> </ul>	<p>A</p>
<p>&lt;細項目1－4－2&gt;医療等サービスの一層の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・個別評価においてS評価が1項目、A評価が9項目、B評価が3項目であったことから、A評価とした。</li> <li>・信州医療センターは、自動精算機と会計表示システムの導入のため、デモを実施し、仕様について検討した。また、薬局・院内保育所を含めた敷地内集合店舗施設の誘致について、経営企画室会議で検討し、疑義事項の確認と今後の進め方を決定した。</li> <li>・こころの医療センター駒ヶ根は、日本医療機能評価機構の病院機能評価を受審し、更新認定を受けた。</li> <li>・木曾病院は、患者サポートセンター内に相談窓口を設置するとともに、院内掲示、地域の広報を行った。</li> <li>・こども病院は、日本医療機能評価機構の病院機能評価を受審し、更新認定を受けた。また、患者の入院前から退院後までを多職種連携で支援する「患者サポートセンター」の開設（令和3年9月）、患児の適性に配慮した就学、就労サポートの推進を行った。</li> </ul>	<p>A</p>
<p>&lt;細項目1－4－3&gt;先端技術の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・個別評価においてA評価が6項目であったことから、A評価とした。</li> <li>・本部事務局は、本部画像診断センターをこども病院内に開設し、木曾病院からの依頼に基づき画像診断を実施した。</li> <li>・信州医療センターは、外来の一部診療科でタブレットによるAI問診サポートを継続し、医師、看護師における問診時間の削減、カルテ記載業務の大幅な効率化、患者との対話時間の増加及び診療待ち時間短縮による患者満足度の向上を図った。</li> <li>・木曾病院は、新設した医療情報部による電子カルテ更新業務・クリニカルパス・院</li> </ul>	<p>A</p>

<p>内情報システム・ネットワークの構築等を推進した。また、外来診療（内科）においてAI問診サポートを活用した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・こども病院は、オンライン面会システムについて、12月から運用を開始した。</li> </ul>	
<p>&lt;細項目1-4-4&gt;信州大学等との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・個別評価においてA評価が4項目、B評価が1項目、D評価が1項目であったことから、B評価とした。</li> <li>・こころの医療センター駒ヶ根は、医師1人が、連携施設である信州大学医学部附属病院にて研修を実施し、精神科専門医研修を修了した。また、連携大学院教育による勤務医の博士号取得に係る研究を実施した。</li> <li>・こども病院は、県から「発達障がい診療専門家現地派遣事業」の一部委託を受け、信州大学医学部附属病院、こころの医療センター駒ヶ根とともに、県内10圏域の地域連携病院と保健福祉事務所で企画する研修会に講師として専門家を派遣し、各圏域における発達障がい診療のネットワークづくりに寄与した。また、信州大学との協定に基づく連携大学院教育による職員の研究活動を推進し、専門性の高い医療従事者を養成した。</li> </ul>	B
<p>&lt;細項目1-4-5&gt;医療に関する研究及び調査の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・個別評価においてA評価が8項目であったことから、A評価とした。</li> <li>・本部事務局は、機構年報を3月に発行した。</li> <li>・こども病院は、AMED、厚労科研、文部科研、民間研究資金等の外部資金による9研究課題を実施した。また、生命科学研究センターで文部科研に5研究課題の申請をし、1課題（若手研究）が採択された。その他、研究者番号を持たない者が申請できる文部科研費（奨励研究）に5研究課題を申請したが採択には至らなかった。</li> <li>・長野県立こども病院医学雑誌第4巻を刊行した。</li> </ul>	A
今後の課題と方針	
<p>新型コロナウイルス感染症への対応の必要性から導入が始まったオンライン診療について、活用を検討していく。</p>	

## 大項目 2

業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

自己評定

A

(中期計画)

医療機関に適した業務運営体制の整備・効率化に努めるとともに、地方独立行政法人制度の強みを生かした柔軟性・自律性・迅速性のある病院経営を行う。

**【総評】**

大項目の自己評定は、小項目をすべてA評定としたため、A評定とした。

**【今後の課題と方針】**

医師の労働時間短縮計画の策定など勤務環境の改善を進めながら、引き続き柔軟な病院経営に努める。

小項目 2-1 業務運営体制の強化	A
<ul style="list-style-type: none"> <li>・個別評価においてA評定が 19 項目であったことから、A評定とした。</li> <li>・本部事務局は、昨年度導入した人事評価制度の実績検証と課題整理及び見直しのため、全職員及び評価者を対象にアンケートを行い、その内容に基づき見直しを実施した。</li> <li>・木曾病院は、時間当たり採算指標等を用いた職員の経営参画を促す仕組みの推進のため、部門リーダーと経営企画課の面談、部門リーダーと採算指標の共有や部門ごとの年間計画及び2か月ごとの計画作成など、BSCの内容が時間当り採算表の数値に反映しているかを確認しながら取り組みを進めた。</li> </ul>	A
今後の課題と方針	
引き続き、医療機関に適した業務運営体制の整備・効率化に努める。	
小項目 2-2 働き方改革への対応	A
<ul style="list-style-type: none"> <li>・個別評価においてA評定が 10 項目、B評定が 4 項目であったことから、A評定とした。</li> <li>・本部事務局は、各病院が策定する「医師労働時間短縮計画」に対する支援のため、看護部長・事務部長合同会議において、労働基準監督署の研修講義に基づく「労務管理上の留意点」について説明した。</li> <li>・信州医療センターは、夜間看護補助者 8 人を配置し、看護師のタスク・シフトを推進し、看護師の 1 人当たり平均超過勤務時間は前年度に比較して減少した。</li> <li>・こころの医療センター駒ヶ根は、外来クラーク 2 人を活用し、医師のタスク・シフティングを推進した結果、医師の超過勤務時間は前年度に比較して減少した。また、夜間看護当直の見直しや病棟の二交代制勤務の実施、時差勤務の積極的な活用、業務の効率化を行うなど業務量の軽減を図り、看護師の 1 人当たり平均超過勤務時間は前年度に比較して減少した。</li> </ul>	A

<ul style="list-style-type: none"> <li>・阿南病院は、オンライン診療導入準備（課題の抽出、技術的な検討、村との調整、院内ワーキンググループの設置など）を実施した。また、勤怠管理システムによる病院スタッフの労働時間を把握及び分析し、その内容について衛生委員会を通じ各セクションへ周知した。</li> <li>・木曽病院は、信州大学医学部附属病院医師によるスポット当直の活用、当直明け等の職務専念義務免除制度の試行、医師事務作業補助者の増員及び業務範囲の拡大により医師の負担軽減を行った。また、会議資料について、コンパクト化を進めるとともに、発表方法を見直し会議時間の短縮を進めた。</li> </ul>	
<p>今後の課題と方針</p>	
<p>働き方改革への対応については、令和6年度に向けて、さらなる医師の負担軽減が課題であり、タスクシフトの推進や医師労働時間短縮計画策定等の取組を実施することで、医師の超過勤務時間の削減に努める。</p>	
<p>小項目2-3 職員の勤務環境の向上</p>	<p>A</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・個別評価においてA評価が9項目、B評価が1項目であったことから、A評価とした。</li> <li>・本部事務局は、看護職場の勤務形態の実態が見える化するため、職種、育児部分休業及び育児短時間勤務制度を活用している職員を常勤換算数で確認できる適正人数試算表を再構築した。また、令和3年4月から相談員を1人配置し、相談体制を強化した。</li> <li>・信州医療センターは、令和2年7月から導入した看護職員ユニフォーム2色制の1年後の評価を行った。看護師へのアンケート調査の結果として、「業務調整を意識した」68%、「仕事のメリハリがついた」69%、「早く帰るという意識の変化」77%、「医療従事者からの依頼がスムーズ」75%、「導入目的が果たされた」63%と、導入の評価は高かった。</li> <li>・こども病院は、精神科の常勤医及びリエゾンナースの不在により「こころの相談室」の活動は停止しているため、従来からの院内よろず相談窓口の活用に加え、7月から本部事務局職員相談員による出張相談を開始し、職員の心のケアをできる機会の確保を図った。</li> </ul>	<p>A</p>
<p>今後の課題と方針</p>	
<p>引き続き、働きやすい職場環境の整備に努め、業務の見直しや効率化の取組等により労働時間の適正な管理や有給休暇の取得促進を図る。</p>	

## 大項目 3

予算（人件費の見積りを含む。）、収支計画及び資金計画

### 自己評定

### A

（中期計画）

病院機構は、県立病院として求められる公的使命を確実に果たすため、業務運営の改善及び効率化に取り組むとともに、地方独立行政法人法（平成 15 年法律第 118 号）に基づき、県からの運営負担金を確保する。

【総評】

大項目の自己評定は、小項目をすべて A 評定としたため、A 評定とした。

【今後の課題と方針】

新型コロナウイルス感染症への積極的な対応を行った結果、経常黒字を達成した。今後も引き続き収益の確保及び費用の削減に努める。

小項目 3-1 経常黒字の維持

A

・経常黒字の維持については、経常収支比率が年度計画を達成したことから、A 評価とした。

【経常収支比率】

	実績	年度計画
病院機構全体	102.8%	100.0%

【損益計算書（機構全体）】

（単位：百万円）

	実績	年度計画	対年度計画
営業収益	25,497	24,557	940
営業費用	24,105	23,937	168
営業外収益	426	407	19
営業外費用	1,034	1,025	9
経常損益	784	2	783
臨時利益	0.5	0	0.5
臨時損失	72	0	72
純損益	712	2	710

※端数処理により、内訳と合計が一致しない箇所があります

・新型コロナウイルス感染症に係る病床確保を行い、感染症医療を積極的に実施したことに伴い、約 15 億円の病床確保料収入があり、機構全体の決算は約 7 億 1 千 2 百万円の純利益となった。

【医業収支比率】

病院名	実績	年度計画	対年度計画
信州医療センター	83.6%	83.4%	0.2%

A

こころの医療センター駒ヶ根	59.0%	63.2%	△4.2%
阿南病院	57.1%	54.1%	3.0%
木曽病院	79.7%	77.6%	2.1%
こども病院	76.4%	79.8%	△3.4%

・こころの医療センター駒ヶ根は、新型コロナウイルス感染症の影響により入院患者数が減少し、年度計画を達成できなかった。

・こども病院は、新型コロナウイルス感染症の影響による県外患者及び高稼働額の患者減少による入院収益の減により、年度計画を達成できなかった。

今後の課題と方針

引き続き、医業収支比率の改善と経常黒字の維持に努める。

小項目 3-2 経営基盤の強化

A

<細項目 3-2-1> 収益の確保

- ・個別評価においてS評価が1項目、A評価が16項目、B評価が16項目であったことから、A評価とした。
- ・こころの医療センター駒ヶ根は、令和4年1月に「m-ECT（修正型電気痙攣療法）センター」を開設し、週2回・5人/日まで治療可能とする体制での運営を開始。センター開設後は治療件数が月平均18.6件から月平均25.6件に増加した。
- ・こども病院は、JACHRI（日本小児総合医療施設協議会）診療情報分析連絡会について、新型コロナウイルス感染症の影響で引き続き対面での情報交換はできなかったが、メーリングリストの活用により他病院との情報交換行い、請求に活用した。

【延患者数】

(単位：人)

病院名	項目	実績	年度計画	対年度計画
信州医療センター	入院	75,716	78,726	△3,010
	外来	119,439	110,750	8,689
こころの医療センター駒ヶ根	入院	33,708	37,316	△3,608
	外来	38,937	38,720	217
阿南病院	入院	15,149	15,230	△81
	外来	53,198	46,440	6,758
木曽病院	入院	46,839	40,620	6,219
	外来	119,477	116,929	2,548
こども病院	入院	49,891	51,804	△1,913
	外来	67,384	67,716	△332

- ・新型コロナウイルス感染症の影響により、入院患者数は木曽病院を除いて計画を下回ったが、外来患者はこども病院を除いて計画を上回った。

【新患者数】

(単位：人)

病院名	項目	実績	年度計画	対年度計画
信州医療センター	入院	4,111	4,048	63
	外来	20,842	19,982	860
こころの医療センター駒ヶ根	入院	501	520	△19
	外来	1,284	1,100	184
阿南病院	入院	844	800	44
	外来	2,893	600	2,293

A



木曽病院	入院	2,414	2,304	110
	外来	7,324	6,948	376
こども病院	入院	3,840	3,968	△128
	外来	3,777	4,145	△368

・各病院は、概ね年度計画を達成した。

**【1人1日あたり診療単価】**

(単位：円)

病院名	項目	実績	年度計画	対年度計画
信州医療センター	入院	51,132	45,073	6,059
	外来	16,020	18,421	△2,401
こころの医療センター駒ヶ根	入院	28,075	27,500	575
	外来	6,847	6,920	△73
阿南病院	入院	32,888	32,305	583
	外来	6,849	7,788	△939
木曽病院	入院	36,204	36,398	△194
	外来	11,909	12,475	△566
こども病院	入院	104,758	109,055	△4,297
	外来	12,945	13,340	△395

・入院単価について、信州医療センターは重症度、医療・看護必要度を維持したことや臨時的取扱いの救急医療管理加算（中等症以上）の算定により、こころの医療センター駒ヶ根は、診療単価の高い児童精神科病棟及び医療観察法ユニットの高稼働により、阿南病院は、急性期看護補助体制加算を始めとした各種加算の取得や、地域包括ケア病床の開設により、それぞれ計画を上回った。

**【平均在院日数】**

	実績	年度計画	対年度計画
信州医療センター	14.8日	16.9日	△2.1日
こころの医療センター駒ヶ根	64.6日	70.0日	△5.4日
阿南病院	16.0日	21.0日	△5.0日
木曽病院	16.0日	14.1日	2.1日
こども病院	12.7日	12.1日	0.6日

・信州医療センターは即応病床確保のための手術制限及び地域包括ケア病棟の削減運用の影響により、こころの医療センター駒ヶ根は新型コロナウイルス感染患者受入れによる早期退院の促進により、阿南病院は入院期間が比較的短い新型コロナウイルス感染症患者の多数受入れなどにより、短縮した。

**【病床利用率】**

	実績	年度計画	対年度計画
信州医療センター	70.0%	74.6%	△4.6
こころの医療センター駒ヶ根	70.5%	78.1%	△7.6
阿南病院	56.0%	59.6%	△3.6
木曽病院	70.3%	58.2%	12.1
こども病院	70.1%	71.9%	△1.8

・木曽病院は、入院患者数が増加したことや、適切なベッドコントロールに努めたことにより、病床利用率が計画を上回った。  
 ・木曽病院を除く各病院は、新型コロナウイルス感染患者受入れのための空床確保や陽性患者等の受入れにより、計画を下回った。

<細項目3-2-2>費用の抑制

・個別評価においてA評価が13項目、B評価が4項目であったことから、A評価とした。

・本部事務局は、コンサルタント及び各病院の薬剤部長等と連携した価格交渉を行い、医薬品費、医療材料費を以下のとおり削減した。

【医薬品費削減額】

(税抜：千円)

信州	駒ヶ根	阿南	木曾	こども	合計
6,577	718	1,134	6,926	3,607	18,962

【医療材料費削減額】

(税抜：千円)

信州	木曾
13,248	15,622

・阿南病院は、阿南町と連携し、病院敷地等の借地を集約化し賃貸費用の抑制を図るため、阿南町と検討を開始した。

・上記取組のほか、超過勤務の縮減や保守契約の見直し等により機構全体として、153,499千円の費用削減を行った。

【医療材料費/医業収益比率】

	実績	年度計画	対年度計画
信州医療センター	28.8%	28.0%	0.8%
こころの医療センター駒ヶ根	5.8%	6.2%	△0.4%
阿南病院	13.7%	16.6%	△2.9%
木曾病院	21.7%	22.2%	△0.5%
こども病院	21.7%	22.4%	△0.7%

・各病院は、薬品購入の一括契約や、価格交渉、高額手術の減等により、医薬品費、材料費の費用節減を行った。

・信州医療センターは、新型コロナウイルス感染症対策に必要な検査等に係る試薬や、高額な医療用材料の購入により、計画を達成ができなかった。

【ジェネリック医薬品使用割合】

	実績	年度計画	対年度計画
信州医療センター	89.8%	88.0%	1.8%
こころの医療センター駒ヶ根	95.7%	85.0%	10.7%
阿南病院	86.1%	86.5%	△0.4%
木曾病院	91.4%	85.0%	6.4%
こども病院	92.1%	90.0%	2.1%

・ジェネリック医薬品への切り替えを進め、概ね計画を達成した。

今後の課題と方針

新型コロナウイルス感染症の影響により、患者数や病床利用率、1人1日あたり診療単価が計画を下回る病院もあった。病床利用率の計画達成や正確な診療報酬の算定など、収益を確保するとともに、一層の費用の削減に取り組み、経営の安定に努める。

A

## 大項目 4

### その他業務運営に関する事項

自己評定

A

(中期計画)

1 コンプライアンスの推進と適切な情報管理

各種研修会等の開催により、法人内のコンプライアンスの強化を図るとともに、内部統制委員会及びリスク管理委員会の活動を通じて内部統制等の評価・検証を行い適切な業務運営を行う。

また、長野県個人情報保護条例や長野県情報公開条例等に基づき、保有する個人情報の適切な情報管理と情報セキュリティ対策を講じるとともに、定期的な研修会等により、職員の理解を深める。

2 施設整備及び医療機器に関する事項

地域の医療需要や費用対効果等を総合的に勘案し、中長期的な視野に立って、施設及び医療機器の整備を計画的に実施する。

また、相当の年数が経過した施設については、長寿命化を図るために必要な大規模改修を、県と連携して進める。

**【総評】**

大項目の自己評定は、小項目をすべてA評定としたため、A評定とした。

**【今後の課題と方針】**

近年増加しているサイバー攻撃などに的確に対応するとともに、長期的な視野に立った効果的な施設及び医療機器の整備に努める。

小項目 4-1 コンプライアンスの推進と適切な情報管理

A

・個別評価においてA評定が7項目であったことから、A評定とした。

・機構本部と各病院等が連携し、全職員を対象としたコンプライアンスに関する研修を実施した。また、県の個人情報保護条例及び情報公開条例に基づき適切な情報管理を行うとともに、情報セキュリティ及び個人情報保護に関する研修を実施し、個人情報の適切な取扱いを推進した。

・病院等を対象とし、「有形固定資産（備品）の管理状況」について、担当者等からの聞き取り及び現場確認による内部監査を実施した。

A

今後の課題と方針

引き続き、コンプライアンスの推進と適切な情報管理に努める。

小項目 4-2 施設整備及び医療機器に関する事項

A

・個別評価においてA評定が6項目であったことから、A評定とした。

**【施設及び設備の整備に関する計画】**

病院名	実績	年度計画
病院機構全体	総額 2,169 百万円	総額 2,734 百万円

A

<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療機器については、新型コロナウイルス感染症対応のための検査機器等必要な機器が増加したが、各病院の医療機器購入検討委員会等や高額機器については機構全体の医療技術部長らで構成する医療器械等審査部会で検討を行い、適正な購入に努めた。また、新型コロナウイルス感染症対応に係る機器については、出来る限り補助金を活用した。</li> <li>・将来の病院改築に向けて、長期資金計画を含めた関係者（本部、木曽病院、こども病院、県医療政策課）による検討を11月から開始した。</li> </ul>	
<p>今後の課題と方針</p>	
<p>引き続き、医療機器等の適正な購入・計画的な施設改修に努める。</p>	
<p>小項目 4－3 コロナ禍で取り組む事項</p>	<p>A</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・個別評価においてA評価が7項目であったことから、A評価とした。</li> <li>・各病院は、新型コロナウイルス感染症感染防止のため、オンライン面会やオンライン会議を実施した。</li> <li>・信州医療センターは、医学生へのオンライン説明会を5回実施し、計235人が視聴した。うち、4人が病院見学、2人が病院実習へとつなげることができた。</li> <li>・木曽病院は、院内の無線通信環境を整備し、医療従事者間の情報共有を推進した。また、有料のWEB会議システム（Zoom）を契約し、長時間の会議の主催が可能となる体制を整えた。</li> <li>・こども病院は、オンライン面会システムについて、12月から運用を開始した。</li> <li>・信州木曽看護専門学校は、オンライン授業に対応するため、各学年のホームルーム及び校長室にランケーブルを敷設した。また、パソコン1台及びタブレット4台を新たに確保した。</li> <li>・本部研修センターは、オンラインによる職員研修を実施した。</li> <li>・本部事務局は、県との連携体制強化及び迅速かつ適正な医療提供体制の調整等を図るため、看護職員1名を県（感染症対策課）に派遣した。また、県からの要請を受けて、長野県健康観察センターへ業務応援を実施した。</li> </ul>	<p>A</p>
<p>今後の課題と方針</p>	
<p>引き続き、オンラインを活用した会議・打ち合わせ等の実施や、オンライン面会、在宅勤務の推進等に努める。</p>	

## 2 病院等別

### 2-1 信州医療センター

#### 【理 念】

私たちは患者中心のチーム医療を実践し、信頼される病院を目指します。

#### 【基本方針】

- 1 人と人とのつながりを大切にし、心が満たされる医療を提供します。
- 2 医療の質の向上を図り安全な医療を行います。
- 3 医療・保健・福祉との結びつきを強化し、地域住民の健康増進に寄与します。
- 4 地域医療を担う優れた人材を育成します。
- 5 感染症医療の拠点病院として、先端医療を提供します。
- 6 病院機能の維持発展のため、健全な経営を行います。

### 2-1-1 総合評価

#### 【成 果】

##### ア 産科医療体制の充実

産後の母親を支援する産後ケア「須坂モデル」の実施により、産科医療を充実  
個室・2人部屋での入院環境の確保とお祝い膳のメニューの見直しや食器の更新を行った結果、患者の満足度が向上したが、新型コロナウイルス感染症による面会制限を理由に、産後ケアの利用を希望しない褥婦が多く、宿泊型、デイサービス型ともに件数が減少

区 分	実績	年度計画	対年度計画	前年度 実績	対前年度 実績
分娩件数	256件	250件	6件	223件	33件
産後 ケア	宿泊型	-人	-人	52人	△18件
	デイサービス型	-人	-人	7人	△5件

##### イ 在宅医療の提供

訪問看護の強化により、在宅療養に寄与  
訪問看護では、新型コロナウイルス感染症拡大、在宅看取りの減少、療養者の状態悪化による入院が重なり利用者が減少  
訪問リハビリでは、産育休の取得のため、9月からスタッフが1.5人減り訪問件数が減少

区 分	実績	年度計画	対年度計画	前年度 実績	対前年度 実績
訪問診療	214件	260件	△46件	238件	△24件
訪問看護	4,226件	4,200件	26件	4,430件	△204件
訪問リハビリ	3,836件	4,300件	△464件	4,479件	△643件
計	8,276件	8,760件	△484件	9,147件	△871件

##### ウ 感染症医療の提供

感染症医療の中核病院として、新型コロナウイルス感染者の積極的受入れ等、感染症拡大に対応  
院内のワクチン接種と須坂市のワクチン集団接種会場への医師及び看護師の派遣により、ワクチン接種体制の強化に寄与

【感染者等受入数】

項目	実績	前年度実績	対前年度実績
感染者受入数	208人 延べ 2,314日	195人 延べ 2,181日	13人 133日
疑い患者受入数	2人 延べ 2日	21人 延べ 48日	△19人 △46日
計	210人 延べ 2,316日	216人 延べ 2,229日	△6人 87日

【検査件数等】

検査種類等	実績	前年度実績	対前年度実績
PCR検査	1,826件	341件	1,485件
抗原定性検査	3,625件	1,074件	2,551件
抗原定量検査	8,240件	206件	8,034件
計	13,691件	1,621件	12,070件

【発熱外来受入れ】

検査種類等	実績	前年度実績	対前年度実績
発熱外来受入れ	8,396人	1,568人	6,828人

【ワクチン接種件数】

項目	実績	前年度実績	対前年度実績
住民	2,079件	0件	2,079件
医療従事者	2,993件	450件	2,543件
計	5,072件	450件	4,622件

【市町村へのワクチン接種支援】

市町村名	延べ日数	派遣延べ人数	
		医師	看護師
須坂市	95日	95人	96人

エ 内視鏡センターの運営

近隣市町村及び医療関係機関との連携により、検査を実施

項目	実績	年度計画	対年度計画	前年度実績	対前年度実績
内視鏡検査件数	6,657件	8,000件	△1,343件	6,316件	341件

・年度当初は、病院全体がコロナ患者の受け入れと感染警戒レベルに応じた対応を取っていたために4月、5月の人間ドック受け入れ制限をかけていた。また、例年6月から実施している対策型胃検診についても受け入れ準備が整わず7月から実施した。

オ 医療従事者の養成と専門性の向上

総合内科医の養成及び特定行為ができる看護師の育成により、県の医療水準向上に寄与

総合内科医の養成	4月1日 総合内科医育成学講座(寄附講座) 開講 担当教員(内科系)2人を配置し、プログラム作成と専門医確保の準備を進めた。
特定行為に係る看護師の育成	9月30日 第1期看護師特定行為研修5人修了(当院2人) 領域別パッケージ研修「在宅・慢性期領域」 10月1日 第2期開講 受講者6人(当院3人) 血糖コントロールに係る薬剤投与関連を区分追加

カ 働き方改革への対応

- ・夜間看護補助者の導入により看護師のタスク・シフトを推進

6月から南2階～南6階病棟に、夜間看護補助者計8人を配置。夜間看護補助者の業務内容の検討を行い、それに伴い日勤看護補助者の業務の見直しを実施。

対象病棟の看護師へのアンケートによると、84%が「タスク・シフトが進んだ」と回答している。また、これにより看護師は「直接的ケア」「看護記録」の時間が確保できるようになった。

キ 費用の抑制

- ・診療材料価格交渉を行い、コストを削減

本部事務局と当院の担当者及び医師が参加し、メーカー16社及びディーラー4社に対して価格交渉を実施。複数回の交渉により、交渉前の価格と比較し令和3年度は13,248千円の削減を達成。

2-1-2 経営指標等

【経営指標】

信州医療センター 令和3年度実績

項目	区分	実績	年度計画	対年度計画比	前年度実績	対前年度比
延患者数	入院	75,716人	78,726人	96.2%	76,307人	99.2%
	外来	119,439人	110,750人	107.8%	111,308人	107.3%
新患者数	入院	4,111人	4,048人	101.6%	4,299人	95.6%
	外来	20,842人	19,982人	104.3%	17,373人	120.0%
1人1日 当たり 診療単価	入院	51,132円	45,073円	113.4%	49,596円	103.1%
	外来	16,020円	18,421円	87.0%	16,096円	99.5%
医業収益	入院	3,871,548 千円	3,548,393 千円	109.1%	3,784,557 千円	109.1%
	外来	1,913,281 千円	2,040,135 千円	93.8%	1,791,563 千円	106.8%
	合計	5,784,829 千円	5,588,528 千円	103.5%	5,576,120 千円	103.7%
平均在院 日数		14.8日	16.9日	△2.1日	13.8日	1.0日
病床利用率		70.0%	74.6%	△4.6ポイント	68.7%	1.3ポイント

コメント	◆入院
	<ul style="list-style-type: none"> <li>入院患者数、病床利用率 手術の制限及び病棟の削減運用により対計画値で減少</li> <li>入院単価 結核病棟（新型コロナウイルス感染症受入病棟）において、症状が比較的重い中等症患者割合が高まったため上昇</li> <li>平均在院日数 即応病床確保のための手術制限及び地域包括ケア病棟の削減運用が影響したため対計画値で短縮</li> </ul>
	◆外来
	<ul style="list-style-type: none"> <li>外来患者数 対計画値・対前年度で増加し、コロナ禍以前の水準まで戻りつつある。</li> <li>外来単価 新型コロナ関連の「行政検査」の対象者の割合が増加したため、対計画値で減少</li> </ul>

項目	実績	年度計画	対年度計画	前年度実績	対前年度実績
紹介率	28.4%	34.0%	△5.6ポイント	33.1%	△4.7ポイント
逆紹介率	26.8%	21.0%	5.8ポイント	23.8%	3.0ポイント
コメント	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆紹介率 ・即応病床確保のための地域包括ケア病床の削減等により減少</li> <li>◆逆紹介率 ・課題となっていた逆紹介率の向上は、院内啓発活動と診療部の協力等により、年度計画の目標を大きく達成</li> </ul>				

### 【損益計算書】

信州医療センター

(税抜、単位：千円)

科目	R3 累計 a	R3 計画 b	対計画 増減 a-b	R2 累計 c	対前年度 増減 a-c
経常収益 (ア)	7,892,758	7,321,658	571,100	7,732,687	160,071
医業収益	6,071,959	5,849,310	222,649	5,838,203	233,756
運営費負担金収益	1,058,820	1,093,572	△ 34,752	1,052,304	6,516
その他経常収益	761,979	378,776	383,203	842,180	△80,201
経常費用 (イ)	7,634,559	7,365,938	268,621	7,351,703	282,856
医業費用	7,260,544	7,014,250	246,294	6,980,184	281,360
給与費	3,739,133	3,695,728	43,405	3,692,270	46,863
材料費	1,811,672	1,705,695	105,977	1,749,439	62,233
減価償却費等	599,599	564,535	35,064	545,058	54,541
経費	1,098,666	1,035,809	62,857	983,348	115,318
研究研修費	11,476	12,483	△ 1,007	10,069	1,407
財務費用	93,510	94,748	△ 1,238	102,567	△9,057
その他経常費用	280,505	256,940	23,565	268,952	11,553



経常損益 (ア-イ)	258,199	△ 44,280	302,479	380,984	△122,785
臨時損益 (ウ)	△ 312	0	△ 312	△ 1,499	1,187
当期純損益 (ア-イ+ウ)	257,886	△ 44,280	302,166	379,485	△121,598
病床確保料(エ)	545,138	242,731	302,407	548,830	△3,692
病床確保料を除く当期純損益(ア-イ+ウ-エ)	△287,252	△287,011	△ 241	△169,345	△117,906
コメント	<p>◆経常収益</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ対策の病床確保に伴う患者数の減に対し診療単価の伸びが大きかったこと、補助金を利用した医療機器購入に係る資産見返補助金戻入が増加したことなどにより医業収益は計画に対し 2.2 億円の増。</li> </ul> <p>◆経常費用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・育休復帰者が多かったことによる給与費の増加、感染対策用の物品及び手術材料の需要増による材料費の増加、調剤や夜間看護の派遣職員に係る経費の増加、補助金を利用した医療機器の購入に係る減価償却費の増加等により、計画に対し 2.6 億円の増。</li> </ul> <p>◆経常損益</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・病床確保料を含まない損益で、2.8 億円の損失</li> </ul>				

## 2-2 こころの医療センター駒ヶ根

### 【理 念】

- 1 私たちは、患者さんの人権を尊重し、信頼される医療サービスを提供します。
- 2 私たちは、長野県の精神科医療の中核病院として、質の高い専門医療を提供します。
- 3 私たちは、医療安全を推進し、人にやさしい病院を目指します。

### 【基本方針】

- 1 患者さん一人ひとりと向き合い、権利の尊重と個別性への配慮に努めます。
- 2 救急・急性期を始めとする地域のニーズに応えるとともに、長野県の精神科医療の中核を担います。
- 3 良質で安全な精神科医療を提供すべく、専門的知識の習得と医療技術の向上に努めます。
- 4 多職種チーム医療を実践します。
- 5 保健・医療・福祉・教育機関と連携して、患者さんの地域生活を支援します。
- 6 精神科医療を担う人材育成と医療の質の向上のための研究・研修に取り組みます。

## 2-2-1 総合評価

### 【成 果】

#### ア 第3期中期計画の主要事業の実施状況

- ・「m-ECT（修正型電気痙攣療法）センター」の開設（令和4年1月）  
令和3年12月に竣工し、翌1月から週2回・5人/日まで治療可能とする体制での運営を開始。センター開設後は治療件数が月平均18.6件から月平均25.6件に増加
- ・「依存症医療センター」の開設（令和4年3月）  
県から指定されたアルコール健康障害、薬物・ギャンブル等に関する「依存症専門医療機関」及び「依存症治療拠点機関」の役割、各種依存症プログラムの提供を内外に示し、関係機関との連携を強化
- ・「インターネット・ゲーム依存症治療」の開始（令和4年3月）  
治療体制、家族支援、情報発信について検討し、試験的入院3例に対して先進病院の治療プログラムを参考に治療を実施後、病院独自の治療プログラムを確立。令和4年3月から外来受入れを開始。  
令和4年5月から入院治療を開始予定
- ・「子どものこころ総合医療センター」基本構想策定（令和3年10月）  
児童精神科医療に対するニーズに応えるため、必要とされる医療体制の整備に向けて「児童・思春期、青年期精神科医療懇談会」を開催。センター開設の意義や目指すべき姿など基本計画の骨格となる「基本構想」を策定
- ・病院機能評価（3rdG:Ver.2.0）更新認定（令和3年11月）  
医療の質の向上と病院運営の透明化のため、病院機能評価（3rdG:Ver.2.0）を更新認定（S評価7項目）

#### イ 精神科救急医療の提供

- ・24時間365日対応により措置入院患者等を受入れ

項 目	実 績	前年度実績	対前年度実績
措置入院件数	23件	20件	3件

精神障がい在宅アセスメントセンター 相談件数	310 件	252 件	58 件
---------------------------	-------	-------	------

・ウォークイン救急患者（外来救急患者）への速やかで適切な入院治療を提供

項目	実績	前年度実績	対前年度実績
ウォークイン 救急患者数	81 人	80 人	1 人
（うち入院）	（38 人）	（47 人）	（△9 人）
入院割合	46.9%	58.8%	△11.9 ポイント

・専門医療の提供

令和4年1月に「m-ECT（修正型電気痙攣療法）センター」を開設し、週2回・5人/日まで治療可能とする体制での運営を開始。センター開設後は治療件数が月平均 18.6 件から月平均 25.6 件に増加

項目	実績	前年度実績	対前年度実績
クロザピン（治療抵抗性統合失調薬）の投薬実人数	14 人	9 人	5 人
m-ECT（修正型電気痙攣療法）治療実施件数	245 件	243 件	2 件

ウ 依存症医療の提供

- ・県から指定された、アルコール健康障害、薬物・ギャンブル等に関する「依存症専門医療機関」及び「依存症治療拠点機関」として、令和4年3月に「依存症医療センター」を開設
- ・全9回のゲーム・ネット依存症チーム会で、治療体制、家族支援、情報発信について検討し、試験的入院3例に対して先進病院の治療プログラムを参考に治療を実施後、病院独自の治療プログラムを確立。令和4年3月から外来受入れを開始。令和4年5月から入院治療を開始予定

エ 児童・思春期、青年期医療の提供

「子どものこころ総合医療センター」基本構想策定（令和3年10月）

児童精神科医療に対するニーズに応えるため、必要とされる医療体制の整備に向けて「児童・思春期、青年期精神科医療懇談会」を2回開催。センター開設の意義や目指すべき姿など基本計画の骨格となる「基本構想」を策定

オ 認知症専門医療の提供

認知症疾患医療センターにおける専門医療相談等の実施

項目		実績	前年度実績	対前年度実績
専門医療 相談	電話	1,198 件	958 件	240 件
	面接	515 件	607 件	△92 件
もの忘れ外来件数		1,903 件	1,981 件	△78 件
（うち鑑別診断）		（124 件）	（91 件）	（33 件）

訪問支援（延べ）	25 件	19 件	6 件
----------	------	------	-----

#### カ 精神科訪問看護の実施

初回入院患者の退院後毎週訪問（1 か月間）等の実施により 3 か月以内再入院を抑制

項 目	実 績	年度計画	対年度計画	前年度実績	対前年度実績
訪問看護件数	1,794 件	1,936 件	△142 件	1,932 件	△138 件
再入院率※	18.4%	—	—	16.4%	2.0 ポイント

※全国自治体病院協議会の医療の質の評価公表では、令和 3 年 4 月から 12 月の全国平均は 19.4% であり、全国平均以下を維持

#### キ 地域の保健・福祉関係機関等との連携の推進

児童相談所・要保護児童対策地域協議会等と連携し児童虐待や自殺企図児童などの緊急入院に対応

項 目	実 績	前年度実績	対前年度実績
新規入院患者数	45 人	53 人	△ 8 人
（うち緊急・優先入院）	（ 6 人）	（ 3 人）	（ 3 人）
（うち成人病棟への入院）	（ 4 人）	（24 人）	（△20 人）

#### ク 医療の質の向上

8 月に日本医療機能評価機構による病院機能評価（3 rdG:Ver.2.0）を受審し、11 月に更新認定（S 評価 7 項目）

#### ケ 医療従事者の養成と専門性の向上

- ・初期研修医の受入れ

項 目	実 績	前年度実績	対前年度実績
初期研修医	17 人	12 人	5 人

- ・精神科認定看護師（1 人）資格取得

#### コ 働き方改革

令和 3 年 11 月より病棟部門を三交代制勤務から二交代制に変更（試行）。外来部門は二交代制勤務を導入し、医師の日当直業務の削減を行い 12 月に医師の宿日直許可を取得

#### サ 職員の勤務環境の向上

勤務時間管理の徹底及び業務の効率化により超過勤務時間を削減

項 目	実 績	前年度実績	対前年度実績
年間総超過勤務時間 （職員全体）	7,487 時間 42 分	8,140 時間 18 分	△652 時間 36 分

#### シ 新型コロナウイルス感染症への対応

精神疾患があり、かつ感染及び感染の疑いがある患者を受入れ

【感染者等受入数】

項目	実績	前年度実績	対前年度実績
感染者受入数	5人 延べ 58日	0人 延べ 0日	5人 58日
疑い患者受入数	8人 延べ 23日	15人 延べ 71日	△7人 △48日
計	13人 延べ 81日	15人 延べ 71日	△2人 10日

【検査件数】

検査種類等	実績	前年度実績	対前年度実績
PCR検査※	109件	8件	101件
抗原定性検査	115件	9件	106件
計	224件	17件	207件

※令和3年12月までは外部委託、令和4年1月から院内検査を開始

【ワクチン接種件数】

項目	実績	前年度実績	対前年度実績
住民	387件	0件	387件
医療従事者	1,136件	0件	1,136件
計	1,523件	0件	1,523件

ス 費用の抑制

セクションごと目標値（昨年比2割減）を設定し超過勤務手当を縮減

項目	実績	前年度実績	対前年度実績
超過勤務手当縮減額※	7,512,712円	14,762,409円	△7,249,697円

※令和3年11月から令和4年3月

2-2-2 経営指標等

【経営指標】

こころの医療センター駒ヶ根 令和3年度実績

項目	区分	実績	年度計画	対年度計画比	前年度実績	対前年度比
延患者数	入院	33,708人	37,316人	90.3%	34,779人	96.9%
	外来	38,937人	38,720人	100.6%	39,037人	99.7%
新患者数	入院	501人	520人	96.3%	519人	96.5%
	外来	1,284人	1,100人	116.7%	1,099人	116.8%
1人1日	入院	28,075円	27,500円	102.1%	28,258円	99.4%

当たり 診療単価	外 来	6,847円	6,920円	98.9%	7,029円	97.4%
医業収益	入 院	946,337 千円	1,026,190 千円	92.2%	982,771 千円	96.3%
	外 来	266,617 千円	267,942 千円	99.5%	274,398 千円	97.2%
	合 計	1,212,954 千円	1,294,132 千円	93.7%	1,257,169 千円	96.5%
平均在院日数		64.6日	70.0日	△5.4日	67.5日	△2.9日
病床利用率		70.5%	78.1%	△7.6ポイント	72.8%	△2.3ポイント
コメント	<p>◆入院</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>入院患者数 新型コロナウイルス陽性患者受入れに伴う入院制限、退院促進の実施、アルコール依存症等の任意入院患者の減少が影響し、対計画で減少</li> <li>入院単価 診療単価の高い児童精神科病棟と医療観察法ユニットの高稼働により、対計画で上昇</li> <li>平均在院日数 新型コロナウイルス感染患者受入れに備え、空床確保による早期退院の促進のため在院日数が短縮</li> <li>病床利用率 新型コロナウイルス感染患者受入れのための空床確保や陽性患者等の受入れにより、依存症等の任意入院患者数が減少</li> </ul> <p>◆外来</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>外来患者数 新規外来患者数は増加、デイケアは新型コロナウイルス感染拡大が影響し減少したが、全体では概ね計画どおり</li> <li>外来単価 新型コロナウイルス感染拡大のため、デイケアを昼食なしのショートケアに切り替えたことにより全体で単価が減少</li> </ul>					

項 目	実 績	年度計画	対年度計画	前年度 実績	対前年度実績
紹介率	49.3%	52.0%	△2.7ポイント	52.5%	△3.2ポイント
逆紹介率	44.6%	40.0%	4.6ポイント	48.1%	△3.5ポイント
コメント	<p>◆紹介率</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>対前年度とほぼ同率</li> </ul> <p>◆逆紹介率</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>認知症疾患医療センターにおいて鑑別診断の件数が増加し、紹介元の医療機関及び地域包括支援センター等への逆紹介が増加</li> </ul>				

## 【損益計算書】

こころの医療センター駒ヶ根

(税抜、単位:千円)

科 目	R 3 累計 a	R 3 計画 b	対計画 増減 a-b	R 2 累計 c	対前年度 増減 a-c
経常収益 (ア)	2,145,113	2,169,247	△ 24,134	2,244,300	△99,187
医業収益	1,231,145	1,305,540	△ 74,395	1,269,168	△38,023
運営費負担金収益	747,073	757,713	△ 10,640	754,580	△7,507
その他経常収益	166,895	105,994	60,901	220,552	△53,657
経常費用 (イ)	2,165,053	2,141,296	23,757	2,065,345	99,708
医業費用	2,088,413	2,065,942	22,471	1,987,906	100,507
給与費	1,465,012	1,427,479	37,532	1,379,444	85,567
材料費	103,414	119,653	△ 16,239	115,545	△12,131
減価償却費	190,315	190,713	△ 398	187,363	2,952
経費	325,037	317,721	7,316	301,914	23,123
研究研修費	4,635	10,376	△ 5,741	3,640	995
財務費用	32,564	32,832	△ 268	35,168	△2,604
その他経常費用	44,076	42,522	1,554	42,272	1,804
経常損益 (ア-イ)	△19,941	27,951	△ 47,892	178,954	△ 198,895
臨時損益 (ウ)	544	0	544	△ 20	564
当期純損益 (ア-イ+ウ)	△ 19,397	27,951	△ 47,348	178,934	△ 198,435
病床確保料(エ)	95,779	41,073	54,706	86,691	9,088
病床確保料を除く当期純損益(ア-イ+ウ-エ)	△115,176	△13,122	△102,054	92,243	△207,419
コメント	<p>◆経常収益</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 5月以降の新型コロナウイルス陽性患者の受入れに伴う、アルコール依存症等の任意入院の抑制により入院収益が減少</li> </ul> <p>◆経常費用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 労基署是正勧告による宿直超勤手当の遡及支給（4～12月で36,000千円）により、給与費が大幅に増加</li> <li>・ 入院患者数減により、材料費が減少</li> <li>・ 施設修繕の増加、燃料代、電気代の高騰、m-ECTセンター開設に伴う消耗品費の増加により経費が増加</li> <li>・ 新型コロナウイルス感染拡大による外部研修等の中止により、研究研修費が減少</li> </ul> <p>◆経常損益</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 入院患者数の大幅な減少に伴う入院収益の減少が大きく影響し、約115,176千円の損失（病床確保料を除く）</li> </ul>				

## 2-3 阿南病院・阿南病院訪問看護ステーションさくら・阿南介護老人保健施設

### 【理 念】

- 1 私たちは、地域の中核病院として、質の高い適正な医療を提供します。
- 2 私たちは、患者さんの人権を尊重し、明るく、やさしさと思いやりのある医療を提供します。
- 3 私たちは、地域の保健・医療・福祉機関との連携のもと、地域に根ざした医療を提供します。

### 【基本方針】

- 1 患者さんとその生活の全てを総合的に診る全人的医療の実践に努めます。
- 2 交通事情や地域ニーズに合った巡回診療、訪問診療・看護・リハビリなどの在宅医療を行い、利便性向上と地域医療の提供に努めます。
- 3 認知症患者などに適切な医療を提供できるよう、地域の関係者と勉強会を実施するなど連携を強化し、地域全体で高齢者を支えます。
- 4 下伊那南部地域唯一の病院として、年間を通して休日・夜間患者などの救急患者の診療を行います。
- 5 下伊那南部地域唯一の病院として、疾病の予防・早期発見及び治癒に寄与できるように、体制や医療機器の充実に努めます。
- 6 地域住民との連携を図るために積極的な情報発信や交流を行います。
- 7 「人材確保」のために必要な環境整備に努めるとともに、「人材育成」のため院内研修会などの充実に努めます。

## 2-3-1 総合評価

### 【成 果】

#### ア へき地医療の取組

- ・常勤医師が不在となった売木村診療所へ代診医師を派遣（週1回・計47回）
- ・売木村診療所の診療回数を増やすため、病院と診療所をインターネット回線で結ぶオンライン診療の導入に向けて準備（令和4年5月から運用開始）
- ・病院への来院が難しい阿南町和合地区における巡回診療を実施

項 目	実績	前年度実績	対前年度実績
診療回数	26回	26回	0回
延べ患者数	74人	77人	△3人

#### イ 在宅医療の推進

地域医療総合支援センターを中心に、訪問診察、看護、リハビリ、服薬指導等を実施し、在宅医療を推進

項 目	実績	年度計画	対年度計画	前年度実績	対前年度実績
訪問診察	302件	250件	52件	313件	△11件
訪問看護	2,767件	2,900件	△133件	2,963件	△196件
訪問リハビリ	1,006件	830件	176件	843件	163件
訪問薬剤指導	25件	30件	△5件	28件	△3件
合 計	4,100件	4,010件	90件	4,147件	△47件



ウ 新型コロナウイルス感染症への対応

- ・保健所と連携し新型コロナウイルス感染者の受入れ及び検査を実施

【感染者等受入数】

項目	実績	前年度実績	対前年度実績
感染者受入数	49人 延べ364日	56人 延べ368日	△7人 △4日

【検査件数】

検査種類等	実績	前年度実績	対前年度実績
PCR検査	1,333件	220件	1,113件
抗原定性検査	249件	28件	221件
計	1,582件	248件	1,334件

- ・感染症患者入院時における病床の効率的な運用に向け、3階病棟の改修工事計画に着手（令和4年7月工事終了予定）

エ 新型コロナウイルスワクチンの接種

下伊那南部5町村と連携し、新型コロナウイルスワクチンの住民接種を実施。一般住民への接種のほか、医療従事者への接種、当院が施設医を務める高齢者施設等での接種、外出が困難な患者宅を訪問しての接種を行った。当院及び近隣診療所との連携により、下伊那南部地域のワクチン2回目接種率は、早い段階で80%以上を達成（接種対象者数1万人以上の県内自治体の中で最速）

また、3月から5町村の5～11歳小児を対象とする新型コロナウイルスワクチン接種を病院内において開始

接種対象	実績	前年度実績	対前年度実績
一般住民	7,682件	0件	7,682件
医療従事者	905件	0件	905件
小児	74件	0件	74件
計	8,661件	0件	8,661件

オ 地域包括ケア病床の運用

令和3年3月から本格稼働を開始した地域包括ケア病床の適切な運用方法を検討するため、多職種による拡大ベッドコントロール会議を毎月開催。加えて効率的なベッドコントロールを進めるため、病棟看護師を対象とする地域包括ケア病床についての研修を実施

【地域包括ケア病床利用実績】（退院患者を含む）

項目	実績	前年度実績	対前年度実績
利用者数	3,657人	230人	3,427人

カ 地域医療福祉連携会議の設置

下伊那南部地区の高齢者施設等と当院とで構成する地域医療福祉連携会議を設置、顔の見える関係づくりをめざして連携を強化

キ 認知症の専門医療の提供

高齢の入院患者が多い状況を背景に、入院早期からせん妄リスク因子をスクリーニングし、ハイリスク患者に対して非薬物療法（院内デイサービスなど）を中心にせん妄対策を行う体制を整備。併せて「せん妄ハイリスク患者ケア加算」の算定を開始

ク 安全で信頼できる医療の提供

- ・入院当初から退院支援を行うことで患者・家族が安心できるよう地域連携室へ専従看護師を配置
- ・摂食嚥下障害看護認定看護師を中心に、多職種が参加する摂食嚥下チームを立ち上げ、高齢者に多い誤嚥の減少に取り組む

ケ 医療従事者の確保・養成

- ・阿南町の支援による医師住宅2棟の新築
- ・阿南高校、信州木曾看護専門学校へ講師派遣をするとともに実習生を受入れ  
 講師派遣：阿南高校福祉コース 26回（看護師4回、介護福祉員22回）  
 実習生受入：飯田女子短大 計17人・20日間  
 信州木曾看護専門学校 計25人・5日間

コ 災害に強い医療体制

災害発生時に備え、電子カルテシステムの更新に併せて、電子カルテデータのバックアップを遠隔地のクラウドを利用して行うシステムを導入

サ 出前講座の実施

当院職員の専門知識を生かし、地域住民の健康意識の向上や病院の情報発信となるよう「出前講座」（メニュー27講座）を企画し、医師や認定看護師を中心に派遣（8回実施、171人参加）

シ 働き方改革への取組

- ・当院から医師を派遣している売木村診療所の診療回数を増やしつつも医師の負担軽減を図るため、オンライン診療導入に向けて準備（令和4年5月から運用開始）
- ・医師の業務負担軽減を図るため、非常勤当直医師を採用
- ・病棟看護師の業務負担軽減を図るため、病棟の看護補助者の2人増員並びに、看護職員と看護補助者との業務内容及び業務範囲の見直しを行い、早朝業務・遅番業務へ一部移行

ス 収益の確保

- ・医療の質の向上、標準化、収益増加をめざして令和6年度にDPC制度に参加することを決定し、DPC準備病院となる届出を提出
- ・入院診療単価の増を図るため、急性期看護補助体制加算25対1 看護補助者5割以上の算定を開始。また、地域包括ケア病床において看護補助者配置加算の算定を開始

セ 訪問看護ステーションさくらの実績

開設2年目となる訪問看護ステーションさくらの安定的な運営に努め、下伊那南部地域の在宅看護の体制を維持

項目	実績	年度計画	対年度計画	前年度実績	対前年度実績
----	----	------	-------	-------	--------

訪問件数	2,767件	2,900件	△133件	2,963件	△196件
------	--------	--------	-------	--------	-------

## ソ 阿南介護老人保健施設の実績

在宅復帰率の向上や在宅訪問を進め、基本サービスの施設基準について、4月から「在宅強化型」、10月から「在宅超強化型」の単位数を算定。加えて科学的介護推進システム（LIFE）によるデータ提出の開始により「栄養マネジメント強化加算」「通所リハマネジメント加算」の算定が可能となり、入所単価が向上

### 【利用者数】

項目	実績	前年度実績	対前年度実績
入所者	13,969人	13,635人	334人
通所者	607人	378人	229人

### 【介護保健施設サービス費】 ※基本サービス料+加算金額

項目	実績	前年度実績	対前年度実績
算定件数	13,969件	13,635件	334件
算定金額	135,814,620円	124,719,820円	11,094,800円

### 【通所リハマネジメント加算】

項目	実績	前年度実績	対前年度実績
算定件数	107件	67件	40件
算定金額	638,070円	221,100円	416,970円

## タ 費用の抑制

光熱水費の執行状況の周知、照明のLED化による省エネ対策を計画的に実施

事務部内で経費削減の取組みを開始し、病院敷地の借上げ方法の見直し、老朽化した医師住宅の解体撤去を実施

## 2-3-2 経営指標等

### 【経営指標】

#### 1 阿南病院 令和3年度実績

項目	区分	実績	年度計画	対年度計画比	前年度実績	対前年度比
延患者数	入院	15,149人	15,230人	99.5%	14,680人	103.2%
	外来	53,198人	46,440人	114.6%	47,565人	111.8%
新患者数	入院	844人	800人	105.5%	801人	105.4%
	外来	2,893人	600人	482.2%	504人	574.0%
1人1日 当たり 診療単価	入院	32,888円	32,305円	101.8%	29,671円	110.8%
	外来	6,849円	7,788円	87.9%	8,972円	87.9%
医業収益	入院	498,200 千円	492,004 千円	101.3%	435,568 千円	114.4%

	外 来	364,239 千円	361,659 千円	100.7%	370,330 千円	98.4%
	合 計	862,439 千円	853,663 千円	101.0%	805,898 千円	107.0%
平均在院日数 (一般病棟)		16.0日	21.0日	△5.0日	18.3日	△1.7日
病床利用率		56.0%	59.6%	△3.6 <sup>ポ</sup> イト	54.3%	1.7 <sup>ポ</sup> イト
コメント	<p>◆入院</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>患者数は、新型コロナウイルス感染症患者の受入れと一般の入院受入れを並行したこと及び地域包括ケア病床の本格的な運用開始に伴い前年度を上回った。</li> <li>診療単価は、急性期看護補助体制加算を始めとした各種加算の取得や、手術件数の増加、包括ケア病床の開設による一般病床の単価増等により、計画・前年度をともに上回った。</li> <li>入院収益は、診療単価及び患者数の増加により、対計画比、対前年度比ともに上回った。</li> </ul> <p>◆外来</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>延患者数は、天龍村への巡回診療が終了したことや、新型コロナウイルスが地域で流行したことにより診療分は減少したが、新型コロナウイルスワクチン接種による公衆衛生活動数が増加したため計画・前年度をともに上回った。</li> </ul> <p>◆公衆衛生活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>一般住民等への新型コロナウイルスワクチン接種により、計画・対前年度をともに大幅に上回った。</li> </ul>					

項 目	実 績	年度計画	対年度計画	前年度実績	対前年度実績
紹介率	34.2%	23.0%	+11.2 <sup>ポ</sup> イト	31.2%	+3.0 <sup>ポ</sup> イト
逆紹介率	22.4%	16.0%	+6.4 <sup>ポ</sup> イト	17.6%	+4.8 <sup>ポ</sup> イト
コメント	<p>◆紹介率</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>2年度に減少した診療所からの紹介患者が戻り始めたこと及び飯田市立病院からの感染者受入れにより、紹介率が増加。</li> </ul> <p>◆逆紹介率</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>診療所からの紹介の増加に伴い、逆紹介率が増加。</li> </ul>				

## 2 阿南病院訪問看護ステーションさくら 令和3年度実績

項 目	実 績	年度計画	対年度計画比	前年度実績	対前年度比
利用者数	2,767人	2,900人	95.4%	2,963人	93.3%
コメント	<p>◆利用者数</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>新型コロナウイルス感染症拡大に伴う利用控えなどにより、計画・前年度をともに下回った。</li> </ul>				

## 3 阿南介護老人保健施設 令和3年度実績

項目	区分	実績	年度計画	対年度計画比	前年度実績	対前年度比
利用者数	入所者	13,969人	14,000人	99.8%	13,635人	102.4%
	通所者	607人	400人	151.8%	378人	160.6%
1人1日 当たり単価	入所	11,018円	10,688円	103.1%	10,454円	105.4%
	通所	11,156円	9,955円	112.1%	10,040円	111.1%
営業収益	入所	153,888千円	149,650千円	102.8%	142,537千円	108.0%
	通所	6,772千円	3,982千円	170.0%	3,795千円	178.4%
コメント	<p>◆入所</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・入所者数は、新型コロナウイルスに対する予防策を講じることで入所控えが減少したため、前年度を上回った。</li> <li>・入所収益は、入所者数の増加及び基本サービス料の施設基準における「強化型」の単位数算定の維持による収益力向上により、計画・前年度をともに上回った。</li> </ul> <p>◆通所</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・通所者数は、安定した利用が続いていることに加え、新規利用者の獲得や既存利用者の利用回数増によって、計画・前年度をともに大きく上回った。</li> <li>・通所収益は、通所者数の増加及び通所リハマネジメント加算による収益単価向上により、計画・前年度をともに上回った。</li> </ul>					

## 【損益計算書】

### 1 阿南病院

(税抜、単位：千円)

科目	R3 累計 a	R3 計画 b	対計画 増減 a-b	R2 累計 c	対前年度 増減 a-c
経常収益 (ア)	2,107,538	1,844,388	263,150	2,062,114	45,424
医業収益	937,399	899,866	37,533	856,509	80,890
運営費負担金収益	748,368	757,958	△ 9,590	746,762	1,606
その他経常収益	421,771	186,564	235,207	458,843	△37,072
経常費用 (イ)	1,705,913	1,728,987	△ 23,074	1,674,893	31,020
医業費用	1,642,071	1,663,742	△ 21,671	1,609,922	32,149
給与費	964,769	964,518	251	955,452	9,317
材料費	140,477	163,678	△ 23,201	152,927	△12,450
減価償却費	209,272	215,062	△ 5,790	197,166	12,106
経費	323,506	313,386	10,120	300,559	22,947
研究研修費	4,046	7,098	△ 3,052	3,818	228
財務費用	16,393	16,611	△ 218	17,763	△1,370
その他経常費用	47,449	48,634	△ 1,185	47,208	241
経常損益 (ア-イ)	401,625	115,401	286,225	387,221	14,405
臨時損益 (ウ)	△ 434	0	△ 434	△ 4,254	3,820
当期純損益 (ア-イ+ウ)	401,191	115,401	285,790	382,967	18,224

病床確保料(エ)	364,088	139,644	224,444	396,484	△ 32,396
病床確保料を除く当期純損益(ア-イ+ウ-エ)	37,103	△ 24,243	61,346	△ 13,517	50,620
コメント	<p>◆経常収益</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>入院収益は、新規加算取得、地域包括ケア病床患者数の増等により、計画・前年度をともに上回った。</li> <li>外来収益は、検査件数、外来手術の増による診療単価の増により、計画を上回った。</li> <li>公衆衛生活動収益は、新型コロナワクチンの接種を実施したことに加え、休日の接種に休日加算がついたことにより、計画・前年度を大幅に上回った。</li> </ul> <p>◆経常費用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>材料費は、薬品購入の一括契約による遡及値引きや、天龍村診療所への巡回診療終了に伴う薬品購入の減等により、計画・前年度をともに下回った。</li> <li>経費は、電子カルテシステム更新による委託料の増、原油価格高騰による燃料費、電気料の増等により、計画・前年度をともに上回った。</li> </ul>				

## 2 阿南介護老人保健施設

(税抜、単位：千円)

科 目	R3 累計 a	R3 計画 b	対計画 増減 a-b	R2 累計 c	対前年度 増減 a-c
経常収益 (ア)	244,684	226,390	18,294	229,459	15,225
介護老人保健施設収益	188,168	179,720	8,448	171,660	16,508
運営費負担金収益	56,111	45,837	10,274	56,942	△831
その他経常収益	405	833	△ 428	857	△452
経常費用 (イ)	215,543	224,865	△ 9,322	221,358	△5,815
介護老人保健施設費用	204,297	213,316	△ 9,019	208,123	△3,826
給与費	134,889	141,872	△ 6,983	141,806	△6,917
材料費	12,934	13,700	△ 766	12,748	186
減価償却費	23,099	23,114	△ 15	22,971	128
経費	33,228	34,348	△ 1,120	30,507	2,721
研究研修費	147	282	△ 135	91	56
財務費用	6,631	6,821	△ 190	8,934	△2,303
その他経常費用	4,614	4,728	△ 113	4,301	314
経常損益 (ア-イ)	29,141	1,525	27,616	8,101	21,040
臨時損益 (ウ)	0	0	0	0	0
当期純損益 (ア-イ+ウ)	29,141	1,525	27,616	8,101	21,040
コメント	<p>◆経常収益</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>入所収益・通所収益ともに、利用者の増及び新規加算取得による入所単価・通所単価の増により、計画・前年度をともに上回った。</li> </ul> <p>◆経常費用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>給与費については、退職給付引当金繰入額の減により、計画・前年度を下回った。</li> <li>経費については、空調設備等の施設修繕、原油価格高騰による燃料費、</li> </ul>				

	電気料の増等により、前年度を上回った。
--	---------------------

2-4 木曽病院・木曽病院介護医療院・木曽介護老人保健施設・

【理 念】

私達は、患者さんの立場にたち、信頼と満足が得られて、心のふれ合いのある医療サービスを実践します。

【基本方針】

- 1 木曽で唯一の病院として、いつでも安心してかかることができる地域に信頼される病院をめざします。
- 2 人権を尊重し、十分な説明と同意（インフォームドコンセント）に基づいた医療サービスを提供します。とりわけチーム医療に取り組みます。
- 3 つねに新しい知識技術の習得に努め、地域に根ざした質の高い医療を提供します。とりわけ救急医療の充実に努めます。
- 4 町村や他の医療・福祉・保健・介護施設と連携を強化して、地域の要望に応えられるよう努めます。とりわけ在宅医療を充実します。
- 5 清潔、快適で安らぎのある療養環境の整備改善に努めます。
- 6 人間性にあふれた、働きがいのある病院運営に努めます。
- 7 健全経営の維持に努めます。

2-4-1 総合評価

【成 果】

ア 在宅医療の充実

在宅療養支援病院として、緊急時の連絡体制並びに24時間往診及び24時間訪問看護の提供が可能な体制を確保

項 目	実 績	年度計画	対年度計画	前年度実績	対前年度実績
訪問診療件数	559 件	700 件	▲141 件	552 件	7 件
訪問看護件数	4,254 件	4,000 件	254 件	4,169 件	85 件
訪問リハビリ件数	1,027 件	800 件	227 件	840 件	187 件
計	5,840 件	5,500 件	340 件	5,561 件	279 件

イ 産科医療の提供

- ・産科の療養環境改善のため、産科ユニットの改修に着手
- ・伊那中央病院と連携し、土日の緊急手術に備えた麻酔科医待機態勢を構築

項 目	実 績	年度計画	対年度計画	前年度実績	対前年度実績
分娩件数	75 件	100 件	▲25 件	72 件	3 件

ウ へき地医療の提供

巡回診療の実施により、無医地区の医療環境の確保に貢献



地区名	実績	年度計画	対年度計画	前年度実績	対前年度実績
台	7回 (7人)	12回 (24人)	▲5回 (▲17人)	9回 (9人)	▲2回 (▲2人)
才児	12回 (25人)	12回 (24人)	0回 (+1人)	12回 (35人)	0回 (▲10人)

エ 地域がん診療病院としての診療機能を充実

令和3年4月、歯科口腔外科を開設  
(令和3年度の患者数 485人)

オ 災害医療の提供

- DMATカー購入のため、クラウドファンディングを活用
  - ・目標金額(第1目標 DMATカー1,700万円、第2目標老健送迎車500万円、第3目標 DMATカーに搭載する医療機器500万円)を上回る3,750万円(寄付者1,050人)の寄付額となり、第1目標から第3目標のすべて購入した。
- 災害拠点病院の機能を強化するため、井戸水の浄化設備を整備
  - ・令和3年10月から運用開始

カ 介護サービスの充実

- 介護医療院
  - ・多職種との連携を強化し、入所者のニーズに応じた生活支援を実施
- 木曾介護老人保健施設
  - ・在宅強化型の維持により、自宅での生活能力向上に向けた支援を実施
  - ・多職種による自宅訪問を実施し、在宅復帰に重点を置いたサービスを提供

キ 先端技術の活用

- ・外来診療におけるAI問診サポートの活用
- ・院内の無線通信環境を整備し、医療従事者間の情報共有を推進
- ・医療情報部を新設(電子カルテ更新業務の推進のほかクリニカルパス、院内情報システム・ネットワークの構築推進)

ク 京セラ式アメーバ経営の運用の推進

- ・時間当たり採算指標とBSCを用い、毎月リーダー面談を行い、課題の取組状況の確認を実施
- ・経営改善ニュースを発行し、運営委員会で時間当たり損益及び各部署の取組状況の共有を実施

ケ 働き方改革への対応

- ・信州大学医学部附属病院医師によるスポット当直を活用し医師の負担を軽減(年間26回)
- ・当直明け等の職務専念義務免除制度の試行(令和3年6月から、延べ22人活用)
- ・医師事務作業補助者の増員(2人)及び業務範囲の拡大
- ・コンサルタントを活用した医師の超過勤務縮減等の働き方改革の推進(10月から委託)

コ 収益の確保

- ・患者の入院期間の情報管理を徹底し、DPC入院期間を意識したベッドコントロールにより診療単価を維持
- ・介護報酬の新規加算の届出（令和3年7月）

項目	実績
科学的介護推進体制加算（Ⅱ）	332,600円
栄養マネジメント強化加算	1,572,450円
薬剤管理指導（特別診療費）	217,000円

サ 費用の抑制

- ・コンサルタントを活用した診療材料価格交渉の実施
- ・経費削減額の見える化・意識化のため、事務部経営企画課内に削減実績を掲示

シ 新型コロナウイルス感染症への対応

第2種感染症指定医療機関及び重点医療機関として、感染拡大に対応

【感染者等受入数】

項目	実績	前年度実績	対前年度実績
感染者受入数	34人 延べ259日	33人 延べ327日	1人 ▲68日
疑い患者受入数	0人 延べ0日	5人 延べ18日	▲5人 ▲18日
計	34人 延べ259日	38人 延べ345日	▲4人 ▲86日

【検査件数等】

検査種類等	実績	前年度実績	対前年度実績
PCR検査	1,804件	541件	1,263件
抗原定性検査	0件	192件	▲192件
抗原定量検査	3,527件	1,780件	1,747件
計	5,331件	2,513件	2,818件

【発熱外来受入れ】

区分	実績	前年度実績	対前年度実績
発熱外来受入れ	2,298人	1,262人	1,036人

【ワクチン接種件数】

項目	実績	前年度実績	対前年度実績
住民	847件	0件	847件
医療従事者	1,799件	0件	1,799件
計	2,646件	0件	2,646件

・感染者の受入れ体制

感染症病棟4床、4階病棟6床にて対応

## 2-4-2 経営指標等

### 【経営指標】

#### 1 木曾病院 令和3年度実績 ※延患者数には介護医療院を含む

項目	区分	実績	年度計画	対年度計画比	前年度実績	対前年度比
延患者数	入院	46,839人	40,620人	115.3%	40,782人	114.9%
	外来	119,477人	116,929人	102.2%	109,849人	108.8%
新患者数	入院	2,414人	2,304人	104.8%	2,171人	111.2%
	外来	7,324人	6,948人	105.4%	6,100人	120.0%
1人1日 当たり 診療単価	入院	36,204円	36,398円	99.5%	36,326円	99.7%
	外来	11,909円	12,475円	95.5%	11,664円	102.1%
医業収益	入院	1,693,872 千円	1,478,474 千円	114.6%	1,481,435 千円	114.3%
	外来	1,404,598 千円	1,458,644 千円	96.3%	1,281,239 千円	109.6%
	合計	3,098,470 千円	2,937,118 千円	105.5%	2,762,674 千円	112.2%
平均在院 日数		16.0日	14.1日	1.9日	15.9日	0.1日
病床利用 率		70.3%	58.2%	12.1 ポイント	61.2%	9.1ポイント
コメント	<p>◆入院 ・入院患者数 新型コロナウイルス感染症の影響を考慮した計画値を上回っていることから、新型コロナウイルス感染症流行に伴う入院患者数に対する影響は前年度に比べて小さくなった状況。・入院単価 DPC入院期間Ⅱを基準とした適切なベッドコントロールに努めた。</p> <p>◆外来 ・外来患者数 入院患者数と同様、新型コロナウイルス感染症流行に伴う外来患者数に対する影響は前年度に比べて小さくなった状況。・外来単価 既存加算の算定件数の増加に努めた。</p>					

項目	実績	年度計画	対年度計画比	前年度	対前年度比
紹介率	17.0%	22.0%	-5.0ポイント	20.1%	-3.1ポイント

逆紹介率	31.0%	26.0%	5.0ポイント	28.0%	3.0ポイント
コメント	<p>◆紹介率 ・紹介患者数自体はほとんど変わらないが、初診救急患者の減少と分母である初診患者数全体の増加により、対計画値で減少</p> <p>◆逆紹介率 ・信州大学医学部附属病院や伊那中央病院への逆紹介患者数の増加、地域のかかりつけ医への逆紹介で機能分化が出来、対計画値で増加</p>				

## 2 木曽病院介護医療院 令和3年度実績

項目	実績	年度計画	対年度計画比	前年度実績	対前年度比
利用者数	6449人	6570人	98.2%	5,664人	113.8%
コメント	・内外部からのニーズに応え積極的な受け入れを行った。また、お試し短期入所などから利用者獲得に努めた。				

## 3 木曽介護老人保健施設 令和3年度実績

項目	区分	実績	年度計画	対年度計画比	前年度実績	対前年度比
利用者数	入所者	15,684人	16,485人	95.1%	14,915人	105.2%
	通所者	23人	661人	3.5%	478人	4.8%
1人1日 当たり単価	入所	11,904円	11,547円	103.1%	11,301円	105.3%
	通所	3,391円	9,871円	34.4%	9,512円	35.6%
営業収益	入所	186,698千円	190,351千円	98.1%	168,553千円	110.8%
	通所	78千円	6,525千円	1.2%	4,547千円	1.7%
コメント	<p>・入所者数 入所者の入院や特養への入所並びに入所予定者の予定変更等により、対計画値は減少したが、昨年度以上の利用へつなげることができた。</p> <p>・通所者数 新型コロナウイルス感染症対策として受け入れを停止していたが、12月より限定して受入を再開している。</p>					

### 【損益計算書】

#### 1 木曽病院

(税抜、単位：千円)

科目	R3 累計 a	R3 計画 b	対計画 増減 a-b	R2 累計 c	対前年度 増減 a-c
経常収益 (7)	4,572,040	4,191,684	380,356	4,288,429	283,611
医業収益	3,209,906	3,033,497	3,206,873	2,859,054	350,852
運営費負担金収益	897,464	876,107	21,357	909,543	△12,079

その他経常収益	464,670	282,080	182,590	519,832	△55,162
経常費用 (イ)	4,179,469	4,062,665	116,804	3,945,978	233,491
医業費用	4,026,066	3,910,386	115,680	3,785,052	241,014
給与費	2,382,850	2,308,116	74,734	2,256,678	126,172
材料費	733,331	706,284	27,047	689,289	44,042
減価償却費	280,742	273,191	7,551	244,240	36,502
経費	621,246	613,045	8,201	588,162	33,084
研究研修費	7,897	9,750	△ 1,853	6,683	1,214
財務費用	17,525	18,123	△ 598	30,131	△12,606
その他経常費用	135,878	134,156	1,722	130,795	5,083
経常損益 (ア-イ)	392,570	129,019	263,551	342,451	50,119
臨時損益 (ウ)	△ 63,487	0	△ 63,487	△ 3,578	△59,909
当期純損益 (ア-イ+ウ)	329,083	129,019	200,064	338,873	△9,790
病床確保料(エ)	292,662	178,671	113,991	399,659	106,997
病床確保料を除く当期純損益(ア-イ+ウ-エ)	36,421	△ 49,652	86,073	△ 60,786	97,207
コメント	<p>◆医業収益 ・入院患者の増加やDPC入院期間を意識したベッドコントロール等により計画を上回った。</p> <p>◆医業費用 ・外科医師1名の増、平日スポット当直の導入などによる給与費の増、診療材料費の増により計画を上回った。</p>				

## 2 木曾介護老人保健施設

(税抜、千円)

科 目	R 3 累計 a	R 3 計画 b	対計画 増減 a-b	R 2 累計 c	対前年度 増減 a-c
経常収益 (ア)	270,984	270,900	84	251,823	19,161
介護老人保健施設収益	218,614	223,406	△ 4,792	199,311	19,303
運営費負担金収益	47,721	46,067	1,654	48,601	△880
その他経常収益	4,649	1,427	3,222	3,911	738
経常費用 (イ)	255,031	270,110	△ 15,079	269,440	△14,409
介護老人保健施設費用	240,297	255,555	△ 15,258	252,822	△12,525
給与費	168,111	184,626	△ 16,515	183,612	△15,501
材料費	16,728	16,666	62	16,544	184
減価償却費	13,763	14,545	△ 782	13,908	△145
経費	41,588	39,509	2,079	38,716	2,872
研究研修費	107	209	△ 102	42	65
財務費用	8,872	9,070	△ 198	11,075	△2,203
その他経常費用	5,862	5,485	377	5,543	319
経常損益 (ア-イ)	15,953	790	15,163	△ 17,617	33,570
臨時損益 (ウ)	0	0	0	△ 1	1

当期純損益 (ア-イ+ウ)	15,953	790	15,163	△ 17,618	33,571
コメント	<p>◆経常収益</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染症対策として通所の受入を11月まで停止しており、12月より限定して受入を再開していること等の状況等から計画を下回った。</li> </ul> <p>◆経常費用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・職員の人員配置の見直し、コスト削減の徹底等により計画を下回った。</li> </ul>				

## 2-5 こども病院

### 【理 念】

わたし達は、未来を担うこども達とその家族のために、質が高く、安全な医療を行います。

### 【基本方針】

- 1 こどもと家族の権利の尊重
- 2 療育環境の充実
- 3 チーム医療の実践
- 4 医療従事者の育成
- 5 健全な病院経営

## 2-5-1 総合評価

### 【成 果】

#### ア 高度・専門医療の提供

##### ○北棟外来診察室・感染隔離室の増設

- ・増加傾向の外来患者に対応して診療機能を強化するための外来診察室の増設、及び外来エリアで適切な感染対策を実践するための感染隔離室の増設を行う北棟増改築工事を9月下旬から開始し、3月末までに増築部分の1階ベッドセンター及び2階会議室・休憩室、改築部分のリハビリスタッフルームが完成。4月中旬に感染隔離室の増築、新外来診察室の改修が完了し、令和4年5月から新外来診察室の運用を開始した。

##### ○小児アレルギーセンターの開設

- ・令和3年4月開設。長野県から「アレルギー疾患医療拠点病院」に指定され、重症・難治性アレルギー疾患患者の診療、地域住民に対する情報提供、アレルギー医療に関わる医療従事者の人材育成、疫学や臨床研究への協力等を実施

人材育成	・アレルギーに関する正しい情報について養護教諭、保健師向け研修を4回実施 ・小児アレルギー疾患の基本的研修を若手医師対象に実施 ・食物経口負荷試験に関する研修を他院から3人受入
情報提供	・5月に医療従事者や学校関係者などを対象とした小児アレルギー相談用メールアドレスを開設（相談件数26件）
疫学・臨床研究推進	・9月 長野県小児アレルギー診療の実態調査（アンケート調査）を実施 ・12月 厚生労働省科学研究に協力し、全国アレルギー疾患拠点病院職員を対象としたアレルギー疾患有病率調査を実施

##### ○成人先天性心疾患センターの開設

- ・令和3年4月開設。日本成人先天性心疾患学会認定の「連携修練施設」として、同学会より「総合修練施設」に認定されている信州大学医学部附属病院と連携し、成人先天性心疾患の診断・治療を行うとともに、人材の育成と臨床研究を支援
- ・令和4年1月から3月にかけて血管撮影装置の更新に伴い、心臓カテーテル検査及び治療の休止期間

があった影響もあり対前年度での診断・治療件数は減少

診断・治療実績	実績	前年度実績	対前年度実績
カテーテル検査	13件	37件	△24件
カテーテル治療	11件	22件	△11件
心臓大血管手術	8件	6件	2件

- ・長野県成人先天性心疾患カンファランスを6回実施し、信州大学医学部附属病院成人先天性心疾患センター、佐久総合医療センター他、県内基幹病院との合同カンファランスを開催

#### ○移行期医療支援センターの開設

- ・令和3年4月開設。小児慢性疾患全般に対する小児期から成人期への移行医療を円滑に進めるためセンター化。5月から16歳以上を対象にした移行期医療支援外来を毎月3枠開設し25件利用があった。

連絡会議・研究会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・信州大学医学部附属病院、地域一般病院や開業医との連携を強化、県内の移行期医療体制の整備を進め、信州大学医学部附属病院との連絡会議を10回実施</li> <li>・9月11日に開催された長野県小児保健研究会のシンポジウム「長野県の移行期医療を考える～様々な視点から～」にて当院で支援した症例を発表</li> <li>・2月5日に県の移行期医療支援センターと共同で「移行期医療シンポジウム：みんなで知ろう つながろう 移行期医療」を開催。当院の移行期医療支援センター長が講演を行い、県民への啓発と理解を深めた。(医療関係者ほか患者・家族が参加)</li> </ul>
就学・就労支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小児慢性疾患患者の準備性・社会性を整えるため、小学校入学前、中学卒業前に知能、発達検査を行い、患者の適性に配慮した就学・就労を目指した支援を患者・家族に実施（就労支援：個別相談延べ7人・集団講話（就労支援セミナー）4回、学習サポート：延べ15人）</li> </ul>

#### ○成育女性科外来の開設

- ・令和3年4月に開設。産科外来で適宜対応していた婦人科診療について院内に周知を行い、月経異常・無月経・月経痛などの症状で悩む患者及びその家族をケアし、治療や治療マネジメントを実施。外来患者数94件の利用があり、院内認知が進み紹介元診療科の拡大と新規患者の紹介数が増加

#### ○ニューロケア（神経治療）センターの取組継続

- ・複雑で高度化した神経機能の疾患に多職種連携で対応し、神経系疾患入院患者数が増加
- ・令和3年10月23日に医療者向け公開シンポジウムを開催し40人以上が参加

代表的な治療法	実績	前年度実績	対前年度実績
バクロフェン持続髄注療法	手術2件 トライアル4件	手術1件 トライアル4件	手術1件 トライアル±0件
迷走神経刺激療法	新規1件	新規2件	新規△1人
ロボットスーツ HAL 療法	97件	85件	12件
ヌシネルセン髄注療法	11件	19件	△8件

#### ○最近の小児患者のニーズに対応した診療体制の継続

- ・あたまの形外来（令和元年10月から診療開始）  
広報やSNSなどを通じた頭蓋変形に対する治療有効性、県内外の関連施設に対する当院での活動



に対する認知度が上がり新規患者数が増加

項目	実績	前年度実績	対前年度実績
患者数	561人	232人	329人
新患者数	121人	71人	50人
矯正用ヘルメット作成数	71件	30件	41件

イ 小児高度救急医療の提供

- ・救急車やドクターヘリによる小児救急患者の受入及びドクターカーの出動により長野県の小児高度救急医療及び地域小児救急の後方支援機能を果たした。

ウ 在宅医療の提供

- ・医療ケアを自宅で継続する患者への訪問診療の充実を図り、今年度の新規患者数は訪問診療3人、訪問リハビリ3人と増加したが、訪問件数は計画及び前年度実績を下回った。(対象患者の病状が不安定で入退院を繰り返し、訪問診療がキャンセルになったケースがあったため)

項目	実績	年度計画	対年度計画	前年度実績	対前年度実績
訪問診療・リハビリ件数(患者数)	44件 (12人)	100件 (-)	△56件 (-)	54件 (10人)	△12件 (2人)

エ 産科医療の提供

- ・新型コロナウイルス感染症拡大の影響から回復傾向

項目	実績	年度計画	対年度計画	前年度実績	対前年度実績
分娩件数	293件	300件	△7件	292件	1件

オ 地域の医療機関と連携した高度医療機器の共同利用

○放射線治療の拡充

- ・地域医療支援病院として、地域の医療機関と連携し成人を対象とした放射線治療の拡充に取り組み、紹介人数は70人と過去最高となった。(照射方法の違いから対前年での件数は減少)

項目	実績	前年度実績	対前年度実績
放射線治療人数	86人	66人	20人増
放射線治療算定件数	1,882件	2,048件	△166件
リニアック稼働額	26,745千円	31,044千円	△4,299千円

※人数は延べ紹介数。件数は延べ照射回数と治療計画数の合算。稼働額は成人・小児の合算

○R I 検査機器による成人を対象にした認知症検査の実施

- ・令和3年9月から新たに成人対象の認知症検査を開始。近隣医療機関からの紹介を受けて9月から3月で21件実施。令和4年度は更なる検査件数の増加を図る。

カ 医療従事者の養成と専門性の向上

○県内医療に貢献する医師の確保・養成

県内医療に貢献する医師の確保	・次年度採用専攻医に関し7月に初期研修医を対象としたWeb病院見学会を開催し、参加者7人のうち2人が当院専攻医に応募。見学会以外からの応
----------------	--

	募と合わせて5人の応募があり4人の専攻医を採用
医師の養成、実習受入	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専攻医教育に関して、毎週Webレクチャーと、救急外来振り返りの会を開催、また、救急シミュレーション教育を隔週で実施</li> <li>・信州大学医学部の講義や実習受入を継続。感染対策のため一時受入中止したが、27人のうち16人の実習生を受入(前年度は21人のうち5人受入)</li> <li>・初期研修医は、相澤病院5人(前年度5人)、飯田市立病院1人(同0人)、松本市立病院1人(同0人)の研修受入を実施</li> </ul>
職員の養成と専門性の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・院内急変対応医師の認定制度を発足させ、PALS(小児二次救命処置法)講習会参加に補助金を設定し受講を積極的に推奨。10人以上の医師を認定</li> <li>・感染管理認定看護師教育課程を1人受講終了し5月試験予定</li> <li>・看護師特定行為研修(慢性期パッケージ)10月より1人受講開始</li> </ul>

#### キ 医療の質の向上に関すること

##### ○病院機能評価受審

- ・病院の更なる改善活動と医療の質の向上を推進するため、令和3年9月2日、3日に日本医療機能評価機構による「病院機能評価」を受審。12月3日付けで機能評価3rdG:Ver.2.0の更新認定を受けた。

##### ○患者サポートセンターの開設

- ・令和3年4月に開設し体制整備期間を経て9月13日から業務開始となり、現在、鼠経ヘルニア、停留精巣、陰嚢水腫、胃瘻造設・噴門形成、漏斗胸、眼瞼下垂、一部の検査入院が対応疾患である。今後対応疾患が拡大予定であり入院前支援(手術前中止薬の確認、代替薬提案)への薬剤師のかかわりが増加する見込
- ・小児外科の手術患者対応数：58件(9月～3月)、形成外科の手術患者対応数：11件(12月～3月)  
入院前加算実績数：加算2 在宅人工呼吸器の乗り換え 10件(9月～3月)、加算1 4件(1月～3月)

##### ○先端技術の活用

- ・来院の必要が無い患者に対する電話診療による処方箋発行について診療体制を継続し、外来担当医師が利用

項目	実績	前年度実績	対前年度実績
電話診療実施件数	271人	125人	146人

- ・面会制限で患児と面会できない家族のためのオンライン面会システムについて、セキュリティ対策に配慮したシステム構築を行い、12月から運用を開始

##### ○連携大学院教育による研究活動の推進

- ・信州大学との協定に基づく連携大学院教育による職員の研究活動を推進し、専門性の高い医療従事者(医師7人、検査技師2人)を養成。学生数は新規進学者3人を加え合計9人に増加
- ・次年度の連携大学院進学者も3人となり、コンスタントに進学者を確保でき、研究指導体制も充実

項目	実績	前年度実績	対前年度実績
入学者数	3人	2人	1人
セミナー開催	8回	7回	1回

ク 働き方改革への対応

○医師の働き方改革への対応

- ・医師の労働時間短縮を推進するためコンサルタント業務を委託。診療科の業務別時間の把握を行い、検討を進め、3月末にとりまとめた報告書を受領した。今後は報告内容を踏まえた医師労働時間短縮計画の策定を進めるとともに示された課題（診療科の勤務体系の検討、診療科別の労働時間に係る運用資料の整備、医師業務のタスクシフト）に対応
- ・医師事務作業補助者を13人配置し、医師の負担軽減を実施

ケ 経営改善、経費削減の取組

○薬剤部にて各種診療報酬を積極的に算定

・薬剤管理指導料

項目	実績	前年度実績	対前年度実績
実施件数	3,887 件	2,950 件	937 件
稼働額	13,022,150 円	9,949,850 円	3,072,300 円

・病棟薬剤業務実施加算

項目	実績	前年度実績	対前年度実績
実施件数	16,065 件	15,261 件	804 件
稼働額	17,250,400 円	16,269,000 円	981,400 円

○小児入院医療管理料1の積極的な算定

- ・令和2年11月から、PICU12床のうちの4床をHCUとして運用し、小児入院医療管理料1を算定したことにより、収益増を実現

項目	実績	前年度実績	対前年度実績
HCU 小児入院医療管理料1	32,409,740 円	13,538,000 円	18,871,740 円

○費用の抑制

- ・診療材料の価格交渉の強化及び同種同等品への切替により21,389千円削減、委託契約の仕様見直しにより委託料14,875千円削減等、コスト削減に努めた。

コ 新型コロナウイルス感染症への対応

○重点医療機関として小児重症患者受入体制を継続

項目	実績	前年度実績	対前年度実績
感染者受入数	3 人 延べ 11 日	0 人 延べ 0 日	3 人 11 日

○検査件数

検査種類	実績	前年度実績	対前年度実績
PCR検査	1,082件	52件	1,030件

○ワクチン接種件数

項目	実績	前年度実績	対前年度実績
住民	171件	0件	171件
うち基礎疾患がある小児患者	71件	0件	71件
医療従事者	1,693件	347件	1,346件
計	1,864件	347件	1,517件

2-5-2 経営指標等

【経営指標】

こども病院 令和3年度実績

項目	区分	実績	年度計画	対年度計画比	前年度実績	対前年度比
延患者数	入院	49,891人	51,804人	96.3%	49,519人	100.7%
	外来	67,384人	67,716人	99.5%	64,261人	104.8%
新患者数	入院	3,840人	3,968人	96.7%	3,744人	102.5%
	外来	3,777人	4,145人	91.1%	3,578人	105.5%
1人1日 当たり 診療単価	入院	104,758円	109,055円	96.1%	105,847円	99.0%
	外来	12,945円	13,340円	97.0%	13,081円	99.0%
医業収益	入院	5,226,470 千円	5,649,474 千円	92.5%	5,241,569 千円	99.7%
	外来	872,288 千円	903,346 千円	96.6%	840,572 千円	103.8%
	合計	6,098,758 千円	6,552,820 千円	93.1%	6,082,141 千円	100.3%
平均在院日数		12.7日	12.1日	0.6日	13.2日	△0.5日
病床利用率		70.1%	71.9%	△1.8ポイント	69.2%	0.9ポイント
コメント	<p>◆入院</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>入院患者数 県内一般小児患者数は回復傾向となり対前年を上回ったが、緊急事態宣言及び蔓延防止措置の影響を受けた県外患者数の減少等により対計画は未達</li> <li>入院単価 県外患者及び手術数の減、先天性心疾患の新生児等高稼働となる患者数の減</li> <li>平均在院日数 新入院患者数及び新退院患者数の減により対計画で延長</li> <li>病床利用率 県内一般小児患者数の増、平均在院日数の延長</li> </ul> <p>◆外来</p>					

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外来患者数 県内一般小児患者数が堅調に増加し対前年を上回ったが、緊急事態宣言及び蔓延防止措置の影響を受けた県外患者数の減少等により対計画は未達</li> <li>・外来単価 県外患者の減少があり計画を下回ったが、抗がん剤の増や頭の形外来の受診増、外来使用により出来高算定へ運用変更した注射料等により対前年では同程度</li> </ul>				
項目	実績	年度計画	対年度計画	前年度実績	対前年度増減
紹介率	69.0%	77.0%	△8.0ポイント	70.5%	△1.5ポイント
逆紹介率	78.6%	73.9%	+4.7ポイント	80.6%	△2.0ポイント
コメント	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆紹介率、逆紹介率</li> <li>・地域医療支援病院の要件（紹介率65%以上かつ逆紹介率40%以上）を満たしている。</li> </ul>				

### 【損益計算書】

こども病院

(税抜、単位：千円)

科目	R3 累計 a	R3 計画 b	対計画 増減 a-b	R2 累計 c	対前年度 増減 a-c
経常収益 (ア)	8,488,965	8,736,033	△ 247,068	8,416,595	72,370
医業収益	6,192,369	6,607,763	△ 415,394	6,156,754	35,615
運営費負担金収益	1,793,575	1,768,230	25,345	1,791,037	2,538
その他経常収益	503,021	360,040	139,981	468,804	34,217
経常費用 (イ)	8,443,283	8,627,104	△ 183,821	8,458,031	△ 14,748
医業費用	8,109,542	8,277,454	△ 167,912	8,094,084	15,458
給与費	4,764,386	4,724,324	40,062	4,702,014	62,372
材料費	1,367,709	1,504,336	△ 136,627	1,465,679	△ 97,970
減価償却費	763,017	778,596	△ 15,579	728,887	34,130
経費	1,188,053	1,236,573	△ 48,520	1,171,684	16,369
研究研修費	26,378	33,625	△ 7,247	25,820	558
財務費用	83,616	85,644	△ 2,028	104,058	△ 20,442
その他経常費用	250,125	264,006	△ 13,881	259,889	△ 9,764
経常損益 (ア-イ)	45,681	108,929	△ 63,248	△ 41,436	87,117
臨時損益 (ウ)	△ 8,086	0	△ 8,086	△ 1,403	△ 6,683
当期純損益 (ア-イ+ウ)	37,595	108,929	△ 71,334	△ 42,839	80,434
病床確保料(エ)	213,710	107,306	106,404	214,613	△ 903
病床確保料を除く当期純損益(ア-イ+ウ-エ)	△176,115	1,623	△ 177,738	△ 257,452	81,337
コメント	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆経常収益</li> <li>・新型コロナウイルス感染拡大に伴う緊急事態宣言、蔓延防止措置の影響を受けた県外患者数の減少が回復せず、手術数及び高稼働額の患者数減少により入院単価が下がり、計画を△247,068千円下回っ</li> </ul>				

	<p>た。</p> <p>◆経常費用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・給与費は、専攻医増員の報酬増加等により計画を上回った。材料費は、入院患者数の減、高額手術数の減等により医薬品費、診療材料費が減少し計画を△136,627 千円下回った。経費は、原油価格高騰に伴い光熱水費・燃料費で計画を上回ったが、物品購入・修繕時の価格交渉や保守契約内容の精査等の費用削減取組に努め経費全体では計画を△48,520 千円下回った。</li> </ul> <p>この結果、経常費用は計画を△183,821 千円下回った。</p> <p>◆純損益</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・当期純損益は、病床確保料を除く場合△176,115 千円の損失、病床確保料を含めた場合 37,595 千円の利益となった。</li> </ul>
--	---

2-6 信州木曾看護専門学校

【理 念】

地域医療、高度・専門医療、県民の視点に立った医療を提供する公的使命をもつ長野県立病院機構立の学校として、看護の社会的役割を担うことのできる専門職者の育成を目指します。恵まれた自然と歴史ある環境のもとで、人間の生命や生活の質を多角的に理解し尊重できる豊かな人間性を育み、科学的思考に基づいた看護を実践できる基礎的能力を養成します。さらに、生涯にわたって学び続ける態度を身につけ、地域における保健・医療・福祉の発展充実に貢献する人材を育成していきます。

【基本方針】

- 1 看護の対象である人間を総合的に理解する豊かな人間性と幅広い視野を養う。
- 2 科学的思考に基づき、対象に応じた看護を実践する基礎的能力を養う。
- 3 保健・医療・福祉の領域において他職種等と協働できる基礎的能力を養う。
- 4 看護職者として主体的に学び続ける基礎的能力を養う。

2-6-1 総合評価

【成 果】

- ア 特色あるカリキュラムの提供と看護の基礎的実践力の育成  
 ・地域性を活かした授業や課外活動により、地元地域への愛着を育む

項 目	実 績	年 度 計 画	対計画 増減
実施 件数	8件	8件	0件
内容	① 山歩き（環境論 1年） ② 森林セラピー（環境論 1年） ③ ほおば巻きづくり（食育学習） ④ そば打ち（食育学習） ⑤ 盲・ろう学校講義（人間関係論） ⑥ 第7回学校祭 ⑦ アイスキャンドル制作（町のイベント参加） ⑧ 看護の日の活動  ※⑤は新型コロナウイルス感染症蔓延により講義に変更	① 山歩き（環境論 1年） ② 森林セラピー（環境論 1年） ③ ほおば巻きづくり（食育学習） ④ そば打ち（食育学習） ⑤ 盲・ろう学校訪問（人間関係論） ⑥ 第7回学校祭 ⑦ アイスキャンドル制作 （町のイベント参加） ⑧ 看護の日の活動	

- ・基礎的な看護技術の習得と実践力の向上を図る工夫  
 ベッドメイキングの技術教授を工夫（2年生から1年生へ伝授）

令和3年度技術テスト合格率				令和2年度技術テスト合格率				対前年度増減			
当初	22%	最終	100%	当初	71%	最終	100%	当初	△49%	最終	0%

- ・木曾病院をはじめとする臨地実習施設と連携を取り実習体制の整備  
 各実習病院と連携しながら実習（基礎看護学、成人看護学・精神看護学・老年看護学・母性看護学・

小児看護学、在宅看護論、統合実習)を12クール終了した。

イ 教員等の安定的な確保及び教育力の向上

- ・教務主任、専任教員の育成

項目	実績	年度計画	対年度計画	前年度実績	対前年度実績
教務主任養成講習会	1人	1人	計画どおり	0人	1人
放送大学 在学	3人	3人	計画どおり	2人	1人
その他大学進学	1人	1人	計画どおり	1人	0人

ウ 学生確保に向けた取組

- ・高校訪問、出前授業、ホームページ、オープンキャンパスを通じた認知度の向上

項目	実績	年度計画	対年度計画	前年度実績	対前年度実績
高校訪問数	65校	62校	3校	5校	60校
ガイダンス・模擬授業	13回	13回	計画どおり	13回	前年と同じ
オープンキャンパス参加者	113人 (保護者含む)	200人	△87人	170人 (保護者含む)	△57人
ホームページブログ更新	41回	36回	5回	36回	5回

エ 学生の学習環境及び生活環境の整備・充実

- ・入学前学習から入学後の学習習慣につながるサポート  
入学前に課題を提示し学習への動機付け、入学後に知識確認テストの実施
- ・国家試験（以下国試）対策の推進及び受験のサポート

全国模擬試験・過去問題の実施など	実績	年度計画	対年度計画	前年度実績	対前年度実績
1年生	2回	2回	計画どおり	3回	△1回
2年生	4回	4回	計画どおり	4回	前年と同じ
3年生	28回	25回	3回	25回	3回

- ・模擬試験以外のサポート

学年	内容	実績	年度計画	対年度計画	前年度実績	対前年度実績
1年生	国試ガイダンス	1回	1回	計画どおり	1回	前年と同じ
2年生	国試ガイダンス	1回	1回	計画どおり	1回	前年と同じ
	解剖生理の復習	1回	1回	計画どおり	1回	前年と同じ
3年生	実習中15分ドリル	実習中はほぼ毎日	実習中は毎日	ほぼ計画どおり	実習中はほぼ毎日	前年と同じ



業者の学習講座 特別講座	夏休み 冬休み 5回	夏休み 冬休み 3回 (12~2月予定)	計画どおり 計画どおり 2回	夏休み 冬休み 2回	前年と同じ 前年と同じ 3回
土曜開校	9日	9日 (12~1月予定)	計画どおり	9日	前年と同じ

・看護師国家試験の状況

受験者数	合格者数	合格率	合格率(全国平均)
24人	24人	100%	91.3%

オ 卒業生と在校生の交流の場づくりとフォローアップ

- ・ホームカミングデイの実施(前年は、新型コロナウイルス感染症蔓延に伴い中止)

項目	実績	年度計画	対計画	前年度実績	対前年度実績
ホームカミングデイ	1回	1回	計画どおり	0回	1回

期日 6月26日(土)

参加人数(卒業生) 8人(新型コロナウイルス感染症蔓延に伴い、木曾郡内在住者に限定)

カ 地元関係団体などとの連携・協力体制の構築

- ・地元行事への参加を通じて交流を深めて学校の認知度をあげる

項目	実績	年度計画	対年度計画
実施件数	1件	8件	△7件
内容	4月 学生宿舎地区の春祭り(中止) 5月 木曾町学生歓迎会(中止) 6月 木曾郡ふれあいスポーツ交流会(中止) 7月 木曾病院防災訓練(中止) 9月 林業大学校との連携事業(中止) 10月 学校所在地の文化祭参加(中止) 11月 木曾病院祭(中止) 2月 雪灯りの散歩道 *新型コロナウイルス感染症拡大のため行事が中止となり参加できず。	4月 学生宿舎地区の春祭り 5月 木曾町学生歓迎会 6月 木曾郡ふれあいスポーツ交流会 7月 木曾病院防災訓練 9月 林業大学校との連携事業 10月 学校所在地の文化祭参加 11月 木曾病院祭 2月 雪灯りの散歩道	

キ 組織的、継続的な学校運営及び教育活動の改善

- ・学校評議会を通して意見収集
- ・自己点検・自己評価を行いホームページで公表

項目	実績	年度計画	対年度計画	前年度実績	対前年度実績
学校評議会の開催	1回 (書面会議)	1回	計画どおり	1回	前年と同じ
自己点検・自己評価の公表	1回	1回	計画どおり	1回	前年と同じ

2-6-2 経営指標等

【損益計算書】

信州木曾看護専門学校

(税抜、千円)

科 目	R3年度 決算 a	R3年度 計画 b	対計画 増減 a-b	R2年度 決算 c	対前年度 増減 a-c
経常収益 (ア)	157,498	159,447	△ 1,949	157,863	△365
看護師養成所収益	18,398	20,460	△ 2,062	18,493	△95
運営費負担金収益	122,635	122,604	31	122,732	△97
その他経常収益	16,465	16,383	82	16,638	△173
経常費用 (イ)	152,470	170,838	△ 18,368	157,105	△4,635
看護師養成所費用	150,725	169,135	△ 18,410	155,341	△4,616
給与費	110,036	118,619	△ 8,583	115,073	△5,037
材料費	0	0	0	0	
減価償却費	10,531	17,304	△ 6,773	10,020	511
経費	28,711	31,275	△ 2,564	29,280	△569
研究研修費	1,447	1,937	△ 490	968	479
財務費用	2	5	△ 3	0	2
その他経常費用	1,743	1,698	45	1,764	△21
経常損益 (ア-イ)	5,028	△ 11,391	16,419	758	4,270
臨時損益 (ウ)	0	0	0	0	
当期純損益 (ア-イ+ウ)	5,028	△ 11,391	16,419	758	4,270
コメント	<p>◆経常収益</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・看護師養成所収益減は、授業料減免等による。</li> </ul> <p>◆経常費用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・給与費の減は、職員の減等による。</li> <li>・経費の減は、新型コロナウイルス感染症まん延の影響で、会議のリモート化による旅費の減、実習先変更によるマイクロバス運行委託料の減等</li> </ul>				

2-7 本部研修センター・本部事務局

2-7-1 総合評価

【成果】

ア 県内医療に貢献する医師の確保・養成に係る取組

- ・医学生や初期臨床研修医等を対象としたシミュレーション教育の充実

初期研修医のシミュレーション教育において、今年度から新たに「プレ ICLS（日本救急医学会の蘇生トレーニングコース受講に向けた練習）」を追加し、プログラムを充実

区分	対象	実績	前年度実績	対前年度実績	
シミュレーション教育	医学生	回数	28回	16回	12回
		参加者数	62人	31人	31人
	初期臨床研修医	回数	24回	22回	2回
		参加者数	80人	74人	6人
シミュレーション体験	医学生	回数	8回	5回	3回
		参加者数	8人	5人	3人

- ・医師確保推進のための医学生対象長野県立5病院 Joint セミナーの開催

新型コロナウイルス感染防止のため、オンラインを使用した事前動画配信、ライブ配信により開催

区分	開催方法	実績	前年度実績	対前年度実績
長野県立5病院 Joint セミナー	事前動画配信	再生回数 567回	1,073回	△506回
	ライブ配信	10大学 20人	12大学 23人	△2大学 3人

イ 機構職員の養成に係る取組

- ・シミュレーション教育指導者委員会による指導者連携と、教育指導者の育成及び研修の充実に目的に委員会を3回開催。委員は自己研鑽を兼ねて、シミュレーション教育指導スキルアップシリーズにもファシリテータとして参加

委員会の検討内容	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・シミュレーション教育指導スキルアップシリーズの振り返りと次年度への検討</li> <li>・シナリオ情報共有事業（各施設のシミュレーション教育シナリオを登録し、機構全体で共有することとして、昨年度からスタート）で登録されたシナリオ（5本）の意見交換等</li> <li>・次年度開催予定のシミュレーション教育指導者研究会発足に向けた検討。</li> </ul>	

- ・全職員を対象とした研修の充実

職員の知識・技術・資質の向上のため、課程別研修、選択研修及び職種ごとの専門研修を実施。なお、新型コロナウイルス感染防止のため、ほとんどの研修をオンラインで実施

区分	実績	前年度実績	対前年度実績	
研修（課程別・選択・専門）	回数	22件	16件	6件
	参加者数	766人	582人	184人
うちオンライン実施	回数	19件	14件	5件
	参加者数	689人	444人	245人

- ・各病院へ精神看護経験者を配置するための病院間交流派遣の検討  
各病院看護部長及びこころの医療センター駒ヶ根と検討及び調整を進め、研修実施要綱及び研修プログラムを策定及び4月28日付けで周知
- ・特定行為研修修了者の活用及び研修内容の検討  
看護部長打ち合わせ会で修了後の活用について検討、修了者の支援体制を構築  
来年度の研修内容について、コアメンバーで検討を開始

期別	研修期間	特定行為研修内容	受講者
第1期	令和2年10月～ 令和3年9月	【在宅・慢性期パッケージ】 *内容は下記のとおり	信州2人 阿南1人 木曾2人
第2期	令和3年10月～ 令和4年9月	【在宅・慢性期パッケージ】 *内容は下記のとおり 【血糖コントロールに係る薬剤投与 関連】	在宅 木曾1人 こども1人 血糖 信州3人 木曾1人

\*内容：呼吸器（長期呼吸療法に係るもの関連）、ろう孔管理関連、創傷管理関連、  
栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連の4区分

- ・看護記録の改善に向けた取組  
8月に各病院看護記録指導者を対象に看護記録研修を実施、研修後、今後の取組や指導者としての役割を確認。1月にオンラインで看護記録委員長会議を開催、取組の進捗状況を確認

#### ウ 県内医療技術者の技術水準の向上への貢献に係る取組

- ・ホームページや広報を活用したスキルスラボ等の利用促進  
信州医療センターの院外広報誌に、シミュレータ貸出し手順など「研修センターの紹介」を掲載（須坂市、高山村、小布施町全戸および各関係医療機関に配布）

#### 【スキルスラボ及びシミュレータ使用実績】

区 分		実績	前年度実績	対前年度実績
スキルスラボ	使用回数	505回	417回	88回
	利用者数	2,851人	2,352人	499人
シミュレータ	使用回数	400回	395回	5回
	利用者数	2,409人	2,087人	322人

- ・Web会議システムを活用したシミュレーション研修の実施

研修名	開催時期	参加者数
スキルアップシリーズ①②③（オンライン研修）	9月～12月	56人（機構内外）
シナリオブラッシュアップ講座（オンライン研修）	3月4日	19人（機構内外）

#### エ 医療の質の向上に係る取組

- ・医療安全相互点検の実施  
新型コロナウイルス感染状況の県レベルに応じた方法で実施。3病院は各病院の医療安全管理者等

で点検、評価を行った。2病院は医療安全管理者が点検を実施し評価した。

なお、再点検項目については、すべて改善した。

・本部画像診断センターを開設

県立病院の画像診断体制を強化するため、4月1日に本部画像診断センターをこども病院内に開設  
木曾病院からの依頼に基づき画像診断を実施

区 分	実績	前年度実績
CT	3,986 件	-
MRI	864 件	-
RI	28 件	-
一般撮影	988 件	-
計	5,866 件	-

オ 前年度導入した人事評価制度の実績検証と課題整理及び見直し

- ・全職員及び評価者を対象にアンケートを行い、その内容に基づき見直しを実施

カ 働き方改革の推進に係る取組

- ・病院における医師労働時間短縮計画策定への支援

6月の看護部長・事務部長合同会議において、労働基準監督署の研修講義に基づく「労務管理上の留意点」について説明

キ 医療の質と経営的な視点を両立させる適正な看護師数の検討

- ・看護職場の勤務形態の実態を見える化するため、職種、育児部分休業及び育児短時間勤務制度を活用している職員を常勤換算数で確認できる適正人数試算表を再構築

ク 職員の心身の健康保持及び増進

- ・4月から相談員を1人配置し、相談体制を強化
- ・保健師及び相談員による巡回健康相談を実施
- ・ストレスチェック及びメンタルヘルス巡回相談を実施しメンタル疾患を早期に把握

項 目	実績	前年度実績	対前年度実績
新規採用職員研修（メンタルヘルス）〔保健師〕	1 回 (72 人)	1 回 (94 人)	前年と同じ (△22 人)
メンタルヘルス巡回相談(新規採用職員等対象)〔保健師〕	各所属 3 回 (216 人)	各所属 3 回 (235 人)	前年と同じ (△19 人)
健康(メンタルを含む)巡回相談(全職員対象)〔保健師〕	各所属 3 回 (263 人)	各所属 3 回 (276 人)	前年と同じ (△13 人)
過重労働による健康障害防止のための面接指導〔産業医〕	各所属で実施 (9 人)	各所属で実施 (14 人)	前年と同じ (△5 人)
ストレスチェック(全職員対象)	1 回 (1,667 人)	1 回 (1,541 人)	前年と同じ (126 人)

ケ 経費削減の取組

・医薬品費の削減

コンサルタント、各病院の薬剤部長等と連携した医薬品の価格交渉を行い、4月1日及び10月1日に遡って交渉後単価を適用し、医薬品費を18,962千円（合計金額）削減

【遡及額】

（税抜 単位：千円）

信州	駒ヶ根	阿南	木曾	こども	合計
6,577	718	1,134	6,926	3,607	18,962

・医療材料費の削減

信州医療センター及び木曾病院において、コンサルタントを交えた価格交渉を実施し、昨年度実績ベースで医療材料費を28,870千円（合計金額）削減

（税抜 単位：千円）

信州	木曾
13,248	15,622

コ 内部監査の実施

- ・病院等を対象とし、「有形固定資産（備品）の管理状況」について、担当者等からの聞き取り及び現場確認による監査を実施

サ 新型コロナウイルス感染症に係る対応

・採用試験その他採用活動に係るオンライン対応の実施

新型コロナウイルスの感染拡大状況やワクチン接種状況を見極めながら、Webによる面接を併行して実施したほか、オンラインによる学生説明会やインターンシップを実施

【採用試験】

実施区分	実施時期	受験人数	Web人数	Web実施率
薬剤師	4月	9	9	100.0%
看護職（第1回）	4、5月	52	7	13.5%
事務職（一次面接）	5月	22	22	100.0%
事務職（二次面接）	5月	10	0	0.0%
看護職（木曾看護）	6月	9	0	0.0%
看護職（第2回）	6月	17	4	23.5%
医療技術職	6月	24	6	25.0%
看護職（第3回）	8月	17	2	11.8%

【学生向け説明会】 薬学生インターンシップフェア（8月）

【インターンシップ】 こども病院（8月、9月）

・時差勤務及び在宅勤務の推進

通勤時の「密」を回避するため、通年での時差出勤を推進（7:15～、7:30～、7:45～、8:00～）

休憩時間の分散化により、食堂、売店、洗面所等での「密」を回避

在宅勤務の実績

	実績	前年度実績	対前年度実績
人数	5人	6人	△1人
延人数	59人	37人	22人

県による「命と暮らしを救う集中対策期間」（9月3日～9月12日）は、事務室内の職員数を概ね5割削減できるよう、在宅勤務及び休暇取得を推進（理事長以下26人）

（在席率）

	平均	最大	最小
午前	56.4%	65.4%	46.2%
午後	56.4%	73.1%	42.3%

- ・県との連携体制強化及び迅速かつ適正な医療提供体制の調整等を図るため、看護職員1人を県（感染症対策課）に派遣研修（令和3年3月1日～令和4年3月31日）
- ・県からの要請を受けて、長野県健康観察センターへ業務応援を実施（8月25日～2月15日）  
本部事務局の看護職員4人による交代制：延べ従事日数35日
- ・本部事務局及び本部研修センター職員（計24人）による信州医療センター正面玄関前での検温当番（交代制）の応援（5月6日～）
- ・オンラインによる職員研修の実施【再掲】

区 分	件数	参加者数
課程別・選択・専門研修	19件	689人
シミュレーション教育指導スキルアップシリーズ	6件	56人(機構内外)
シナリオブラッシュアップ講座（オンライン研修）	1件	19人(機構内外)

## 2-7-2 経営指標等

### 【損益計算書】

本部研修センター・本部事務局

（税抜、千円）

科 目	R3 累計 a	R3 計画 b	対計画 増減 a-b	R2 累計 c	対前年度 増減 a-c
経常収益 (ア)	43,585	44,779	△ 1,194	37,272	6,313
運営費負担金収益	38,233	41,912	△ 3,679	27,499	10,734
その他経常収益	5,352	2,867	2,485	9,773	△4,420
経常費用 (イ)	388,194	370,793	17,401	356,969	31,225
一般管理費	383,424	367,424	16,000	347,465	35,959
給与費	304,739	281,114	23,625	267,887	36,852
材料費	0	0	0	0	

減価償却費	37,173	38,371	△ 1,198	30,875	6,298
経費	39,003	37,980	1,023	46,971	△7,968
研究研修費	2,509	9,959	△ 7,450	1,732	777
財務費用	207	529	△ 322	219	△12
その他経常費用	4,563	2,840	1,723	9,285	△4,722
経常損益 (ア-イ)	△ 344,609	△ 326,014	△ 18,595	△ 319,697	△ 24,912
臨時損益 (ウ)	△ 3	0	△ 3	△ 13	10
当期純損益 (ア-イ+ウ)	△ 344,612	△ 326,104	△ 18,508	△ 319,710	△ 24,902
コメント	<p>◆経常費用</p> <p>・研究研修費は、新型コロナウイルスの影響による研修中止・内容変更により対計画で減少した。</p>				



<参考> 数値目標に対する達成状況及び主な経営指標

主要指標（対年度計画比）

（単位：％、日）

項 目		R 3 年度 実績 (a)	R 3 年度 計画 (b)	対計画比 (a) - (b)		備 考	
医 業 収 入 指 標	病 床 利 用 率	信州医療センター	70.0	74.6	△	4.6	H26.8～運用病床数226床、H30.12～同215床（一般稼働病床数264－地域包括49）に基づき算出
		こころの医療センター駒ヶ根	70.5	78.1	△	7.6	H23.1～新病棟129床に基づき算出
		阿南病院	56.0	59.6	△	3.6	H25.6～新病棟85床、H31.1～運用病床数77床に基づき算出
		木曽病院	70.3	58.2		12.1	H25.4～運用病床数186床、H30.4～同159床、R2.3～151床に基づき算出
		こども病院	70.1	71.9	△	1.8	H25.10～運用病床数180床に基づき算出
	平 均 在 院 日 数	信州医療センター	14.8	16.9	△	2.1	
		こころの医療センター駒ヶ根	64.6	70.0	△	5.4	
		阿南病院	16.0	21.0	△	5.0	
		木曽病院	16.0	14.1		1.9	
		こども病院	12.7	12.1		0.6	
収 支 指 標	経常収支比率		102.8	100.0		2.8	
	医 業 収 支 比 率	信州医療センター	83.6	83.4		0.2	
		こころの医療センター駒ヶ根	59.0	63.2	△	4.2	
		阿南病院	57.1	54.1		3.0	
		木曽病院	79.7	77.6		2.1	
		こども病院	76.4	79.8	△	3.4	
	医 療 材 料 費 比 率	信州医療センター	28.8	28.0		0.8	
		こころの医療センター駒ヶ根	5.8	6.2	△	0.4	
		阿南病院	13.7	16.6	△	2.9	
		木曽病院	21.7	22.2	△	0.5	
こども病院		21.7	22.4	△	0.7		

【主要指標の算定方式】

- 病床利用率 年間延入院患者数 ÷ 年間延病床数 × 100
- 平均在院日数 在院患者延日数 ÷ { (新入院患者 + 新退院患者数) ÷ 2 }
- 経常収支比率 経常収益 ÷ 経常費用 × 100
- 医業収支比率 医業収益 ÷ 医業費用 × 100
- 医療材料費比率 医療材料費（薬品費 + 診療材料費） ÷ 医業収益 × 100

\* 経常収支比率は機構全体のもの

指標：延患者数

(単位：人)

病 院		区 分	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度
信 州	入 院	計 画	89,937	91,051	90,261	90,432	78,726
		実 績	90,537	90,876	88,977	76,307	75,716
	外 来	計 画	131,201	121,155	123,535	117,462	110,750
		実 績	122,540	120,801	120,749	111,308	119,439
駒ヶ根	入 院	計 画	37,668	37,668	38,228	38,228	37,316
		実 績	37,848	37,515	37,400	34,779	33,708
	外 来	計 画	45,927	41,310	37,200	37,510	38,720
		実 績	41,024	40,051	41,189	39,037	38,937
阿 南	入 院	計 画	22,000	21,500	21,300	15,980	15,230
		実 績	20,818	19,272	17,053	14,680	15,149
	外 来	計 画	52,900	48,988	49,254	48,080	46,440
		実 績	48,562	47,667	46,882	47,565	53,198
木 曾	入 院	計 画	51,538	46,107	49,037	47,473	40,620
		実 績	46,554	48,709	43,681	40,782	46,839
	外 来	計 画	132,873	129,256	125,475	124,233	116,929
		実 績	128,076	127,418	125,512	109,849	119,477
こども	入 院	計 画	53,902	52,797	54,675	54,573	51,804
		実 績	53,560	55,723	52,647	49,519	49,891
	外 来	計 画	61,623	63,113	66,557	69,638	67,716
		実 績	62,842	64,946	66,776	64,261	67,384

指標：1人1日当たり診療単価

(単位：円)

病院	区分	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	
信州	入院	計画	41,761	42,204	42,311	42,964	45,073
		実績	40,799	41,785	43,532	49,596	51,132
	外来	計画	11,057	12,800	12,800	17,300	18,421
		実績	12,359	13,042	14,887	16,096	16,019
駒ヶ根	入院	計画	28,870	27,150	27,260	27,260	27,500
		実績	27,120	27,093	27,432	28,258	28,075
	外来	計画	6,380	6,545	6,539	6,750	6,920
		実績	6,576	6,747	6,986	7,029	6,847
阿南	入院	計画	27,050	29,455	28,357	31,613	32,305
		実績	27,568	28,373	28,291	29,671	32,887
	外来	計画	7,218	6,821	6,731	8,125	7,788
		実績	7,106	6,910	7,066	8,972	6,847
木曾	入院	計画	35,174	37,217	35,659	35,272	36,398
		実績	35,398	35,594	37,189	36,326	36,204
	外来	計画	10,588	10,965	10,654	11,500	12,475
		実績	10,891	10,601	10,040	11,664	11,909
こども	入院	計画	96,820	96,367	97,411	101,000	109,055
		実績	95,627	96,687	102,667	105,847	104,758
	外来	計画	11,698	12,000	12,700	13,230	13,340
		実績	12,532	12,735	12,681	13,081	12,945

指標：医療材料費／医業収益比率

(単位：%)

病院	区分	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度
信州	計画	24.0	25.2	26.8	25.6	28.0
	実績	23.9	24.3	27.4	28.9	28.8
駒ヶ根	計画	5.3	9.3	6.1	6.1	6.2
	実績	5.9	5.7	5.9	6.4	5.8
阿南	計画	17.7	16.1	16.6	16.3	16.6
	実績	15.3	15.5	16.1	16.4	13.7
木曾	計画	23.3	23.5	23.0	22.4	22.2
	実績	23.9	22.4	21.4	22.9	21.7
こども	計画	20.0	20.0	20.0	20.9	22.4
	実績	20.6	21.3	21.9	23.4	21.7

指標：平均在院日数

(単位：日)

病 院	区 分	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度
信 州	計 画	-	-	-	14.8	16.9
	実 績	15.7	14.8	15.4	13.8	14.8
駒ヶ根	計 画	-	-	-	71.7	70.0
	実 績	67.6	69.3	72.7	67.5	64.6
阿 南	計 画	-	-	-	20.9	21.0
	実 績	19.6	20.4	19.9	18.3	16.0
木 曾	計 画	-	-	-	16.5	14.1
	実 績	17.6	16.5	17.9	15.9	16.0
こども	計 画	-	-	-	14.1	12.1
	実 績	13.5	14.1	12.4	12.8	12.6

指標：病床利用率（運用病床）

(単位：%)

病 院	区 分	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度
信 州	計 画	81.5	80.9	83.8	82.0	74.6
	実 績	79.3	81.2	79.9	68.7	70.0
駒ヶ根	計 画	80.0	80.0	80.0	80.0	78.1
	実 績	79.2	78.5	78.1	72.8	70.5
阿 南	計 画	67.7	70.0	70.0	70.0	59.6
	実 績	63.7	60.4	57.4	54.3	56.0
木 曾	計 画	72.3	72.6	78.6	74.0	58.2
	実 績	64.3	78.1	69.4	61.2	70.3
こども	計 画	75.8	73.4	77.5	76.8	71.9
	実 績	74.6	78.0	73.1	69.2	70.1

- ・信州：H26.8～運用病床数226床、H30.12～同215床（一般稼働数264－地域包括49）に基づき算出
- ・駒ヶ根：H23.1～新病棟129床
- ・阿南：H25.6～新病棟85床、H31.1～運用病床数77床、R2.4～運用病床数70床に基づき算出
- ・木曾：H25.4～運用病床数186床、H30.4～同154床、R2.3～151床に基づき算出
- ・こども：H25.10～運用病床数180床に基づき算出

指標：在宅医療件数（訪問診療・訪問看護・訪問リハ）

（単位：件）

病 院	区 分	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度
信 州	計 画	5,360	6,660	7,460	8,260	8,760
	実 績	7,029	7,588	8,829	9,147	8,276
駒ヶ根	計 画	1,750	1,750	1,750	1,920	1,936
	実 績	1,658	1,681	1,982	1,932	1,794
阿 南	計 画	2,500	2,200	2,200	3,108	4,010
	実 績	2,175	2,293	2,104	4,119	4,100
木 曾	計 画	5,000	4,300	4,850	5,000	5,500
	実 績	4,523	4,801	5,433	5,561	5,840
こども	計 画	－	－	－	180	100
	実 績	－	－	－	54	44

指標：ジェネリック医薬品使用割合（院内）

（単位：％）

病 院	区 分	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度
信 州	計 画	80.0	80.0	90.0	90.0	88.0
	実 績	86.8	90.0	91.7	90.5	89.8
駒ヶ根	計 画	－	－	－	85.0	85.0
	実 績	－	－	－	90.1	95.7
阿 南	計 画	70.0	80.0	85.0	88.0	86.5
	実 績	78.4	86.2	86.7	86.0	86.1
木 曾	計 画	70.0	80.0	85.0	85.0	85.0
	実 績	80.7	82.4	81.9	84.9	91.4
こども	計 画	80.0	85.0	80.0	85.0	90.0
	実 績	87.0	86.5	88.6	89.5	92.1

指標：紹介率及び逆紹介率

(単位：%)

病院	区分		H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度
信州	紹介率	計画	—	—	—	—	34.0
		実績	29.0	28.4	33.7	33.1	28.4
	逆紹介率	計画	—	—	—	—	21.0
		実績	23.9	22.6	20.7	23.8	26.8
信州 参考：全国 自治体病院 協議会方式	紹介率	計画	62.5	63.7	59.4	59.7	—
		実績	59.4	59.6	66.2	60.8	55.7
	逆紹介率	計画	16.0	18.0	16.7	16.5	—
		実績	15.7	15.4	13.0	17.6	31.4
駒ヶ根	紹介率	計画	—	—	—	52.0	52.0
		実績	—	—	—	52.5	49.3
	逆紹介率	計画	—	—	—	36.0	40.0
		実績	—	—	—	48.1	44.6
阿南	紹介率	計画	20.0	21.0	20.0	21.5	23.0
		実績	18.8	20.3	22.5	31.2	34.2
	逆紹介率	計画	15.0	15.0	15.0	13.5	16.0
		実績	14.1	13.0	15.3	17.6	22.4
木曾	紹介率	計画	21.0	21.0	25.0	26.0	22.0
		実績	24.6	27.0	28.1	20.1	17.0
	逆紹介率	計画	14.0	14.0	17.0	17.0	26.0
		実績	17.1	18.1	21.5	28.0	31.0
こども	紹介率	計画	65.0	70.0	77.0	77.0	77.0
		実績	77.0	73.2	75.4	70.5	69.0
	逆紹介率	計画	40.0	90.0	80.0	73.9	73.9
		実績	80.7	73.9	75.1	80.6	78.6

【紹介率・逆紹介率の算定方式】（全国自治体病院協議会方式）

○ 紹介率  $(\text{紹介初診患者数} + \text{初診救急患者数}) \div \text{初診患者数}$

○ 逆紹介率  $\text{逆紹介患者数} \div \text{初診患者数}$

※こども病院及び信州医療センター（R3から）については、地域医療支援病院承認要件で計算

（地域医療支援病院承認要件：初診患者数から救急搬送された患者、休日夜間に受診した患者、健康診断により疾患が発見され、特に治療の必要を認めて治療を開始した患者を除く）

○ 紹介率  $\text{紹介初診患者数} \div \text{初診患者数}$

○ 逆紹介率  $\text{逆紹介患者数} \div \text{初診患者数}$

指標：分娩件数

(単位：件)

病 院	区 分	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度
信 州	計 画	180	265	220	250	250
	実 績	123	186	230	223	256
木 曾	計 画	-	-	-	108	100
	実 績	115	105	103	72	75
こども	計 画	-	-	-	300	300
	実 績	290	295	331	292	293

指標：経常収支比率（病院機構全体）

達成目標：経常収支比率100%以上

(単位：百万円、%)

病 院	区 分	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度
経常収益	計 画	23,540	23,453	23,720	24,525	24,965
	実 績	23,201	23,763	23,863	25,421	25,923
経常費用	計 画	23,508	23,432	23,703	24,458	24,963
	実 績	23,324	23,346	24,006	24,501	25,211
経常損益	計 画	32	21	17	67	2
	実 績	△ 123	417	△ 143	920	712
経常収支比率	計 画	100.1	100.1	100.1	100.3	100.0
	実 績	99.5	101.8	99.4	103.8	102.8

※係数は、端数をそれぞれ四捨五入しており、内訳と合計が一致しない箇所がある。

指標：医業収支比率

(単位：%)

病 院	区 分	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度
信 州	計 画	-	-	-	85.8	83.4
	実 績	85.5	88.4	87.0	83.6	83.6
駒ヶ根	計 画	-	-	-	62.1	63.2
	実 績	68.8	66.6	67.8	63.8	59.0
阿 南	計 画	-	-	-	51.2	54.1
	実 績	60.7	58.7	55.2	53.2	57.1
木 曾	計 画	-	-	-	77.3	77.6
	実 績	77.3	79.8	77.7	75.5	79.7
こども	計 画	-	-	-	77.1	79.8
	実 績	80.0	82.7	80.1	76.1	76.4

・救急車受入台数（件）

病院名	実績	前年度実績	対前年度実績
信州	1,716	1,482	234
駒ヶ根			
阿南	223	250	△ 27
木曾	1,012	972	40
こども	319	271	48
計	3,270	2,975	295

・時間外救急患者数（件）

病院名	実績	前年度実績	対前年度実績
信州	5,747	4,715	1,032
駒ヶ根	226	272	△ 46
阿南	1,019	932	87
木曾	3,284	2,784	500
こども	3,447	3,199	248
計	13,723	11,902	1,821

・手術件数（件）

病院名	実績	前年度実績	対前年度実績
信州	1,600	1,683	△ 83
駒ヶ根			
阿南	86	71	15
木曾	686	536	150
こども	1,667	1,683	△ 16
計	4,039	3,973	66

・全麻件数（件）

病院名	実績	前年度実績	対前年度実績
信州	827	800	27
駒ヶ根			
阿南	0	0	0
木曾	194	243	△ 49
こども	1,609	1,692	△ 83
計	2,630	2,735	△ 105



令和3年度 新型コロナウイルス感染症に係る実績

・感染者等受入数

(単位：人)

病 院	感染者		疑い患者		計	
	受入人数	延べ人数	受入人数	延べ人数	受入人数	延べ人数
信 州	208	2,314	2	2	210	2,316
駒ヶ根	5	58	8	23	13	81
阿 南	49	364	0	0	49	364
木 曾	34	259	0	0	34	259
こども	3	11	0	0	3	11
計	299	3,006	10	25	309	3,031

・検査件数

(単位：件)

病 院	PCR検査	LAMP法	抗原検査 (定性)	抗原検査 (定量)	計
信 州	1,826	0	3,625	8,240	13,691
駒ヶ根	109	0	115	0	224
阿 南	647	686	249	0	1,582
木 曾	1,371	433	0	3,527	5,331
こども	1,082	0	0	0	1,082
計	5,035	1,119	3,989	11,767	21,910

・ワクチン接種実績

(単位：人)

病院名	実績	前年度実績	対前年度実績
信 州	5,072	450	4,622
駒ヶ根	1,523	0	1,523
阿 南	8,661	0	8,661
木 曾	2,646	0	2,646
こども	1,864	0	1,864
計	19,766	450	19,316

※阿南病院のみ、ワクチン接種実績人数を外来患者数に含む

・市町村等が行うワクチン接種への応援

(単位：人)

病 院	職種別派遣等延べ人数					備 考
	医師	看護師	薬剤師	事務	計	
信 州	96	105	5	21	227	医療従事者、県（アストラゼネカ）、市町村
駒ヶ根	53	75	7	1	136	市町村、社会福祉施設等
阿 南	66	103	14	34	217	医療従事者、市町村、社会福祉施設
木 曾	64	24	19	0	107	医療従事者、町村
こども	153	201	4	0	358	医療従事者、市町村、小児
計	432	508	49	56	1,045	